

# 教育データ利活用のユースケース集

# 目次

1.	教育データ利活用のユースケースまとめ	P.3
2-1.	<b>授業改善</b> に向けた教育データ利活用	
2-1-1.	学習データを活用した授業改善	P.5
コラム	教育データの「見える化」パターン	P.11
2-2.	<b>個別支援</b> に向けた教育データ利活用	
2-2-1.	学習・生活データを活用した個別支援	P.14
2-2-2.	学習・生活面の自律的な振り返り・改善	P.20
2-3.	要配慮児童生徒への <b>組織的な対応強化</b> に向けた教育データ利活用	
2-3-1.	行政データの横断的な活用による児童生徒への支援	P.25
コラム	教育データの「予測」パターン	P.28
2-3-2.	学校内外のデータを活用した不登校児童生徒への支援	P.29
2-4.	<b>学校運営・学級経営</b> に向けた教育データ利活用	
2-4-1.	教育委員会から学校への支援	P.33
2-4-2.	学校の働き方改革の推進	P.36
2-5.	教育委員会による <b>施策立案</b> に向けた教育データ利活用	
2-5-1.	Eビデンスを踏まえた教育施策の立案・実行・改善	P.41
コラム	教育データの「検証」パターン	P.44
別紙	データ項目一覧	

## はじめに

本ユースケース集は、「教育データ利活用とは、具体的にどういうものなのか」「どのような事例があるのか」を知りたい教育委員会の担当者の方や、学校の先生方を想定して、教育データの具体的な活用方法について、よりイメージをしていただきやすい事例も交えてまとめたものです。例えば、児童生徒の学習データ（成績やデジタルドリルの使用状況等）や生活データ（日々の出欠や健康観察の結果等）を踏まえて効果的な個別支援に繋げる、教職員の働き方のデータを踏まえて業務改善に繋げる、これらのデータをもとに自治体の教育施策を改善するといった教育データ利活用の取組が全国で広がっており、これらの取組について、それぞれの効果・活用フロー・具体事例について整理しました。

併せて公開されている「教育データ利活用のステップ（β版）2.0」では、教育データ利活用を実現していくに向けた一連のステップを整理しています。本ユースケース集で、「教育データ利活用はこのような可能性があるんだ」ということを知っていただきつつ、「教育データ利活用のステップ（β版）2.0」で実際にそれを実現するためのステップを検討いただくような使い方を想定しています。教育活動や学校環境をより良くしていくための教育データ利活用の可能性を広げるために、これらの資料を活用いただければ幸いです。

なお、情報収集に際しては、本ユースケース集に掲載している内容に限らず、多くの教育委員会にアンケートやヒアリングのご協力をいただきました。ここに御礼申し上げます。

# 1. 教育データ利活用のユースケースまとめ

教育データ利活用のユースケースを「何のために」「誰が」「どのように」使うのかという3観点から整理しています。教育データ利活用においては、まず「何のために」教育データ利活用を行うのかを明確化することが重要です。

## 何のために

- 授業改善のために
- 児童生徒の個別支援のために
- 要配慮児童生徒への組織的な対応のために
- 学校運営・学級経営のために
- 教育委員会による施策立案のために

## 誰が※1

- 教職員が
- 児童生徒が
- 学校管理職が
- 教育委員会が
- (保護者が)

## どのように※2

- 状況を把握するためにデータを**見える化する**
- 関係者間でデータを**共有する**
- 施策の効果や課題の背景を**検証する**
- 課題に早期対応するためにリスクを**予測する**

当資料で扱う8のユースケースについて、上記3観点から整理したものが以下のマッピングです。

### 2-1. 授業改善のために

2-1-1. 学習データを活用した授業改善 P.5

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

### 2-2. 個別支援のために

2-2-1. 学習・生活データを活用した個別支援 P.14

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

2-2-2. 学習・生活面の自律的な振り返り・改善 P.20

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

### 2-3. 要配慮児童生徒への組織的な対応強化のために

2-3-1. 行政データの横断的な活用による児童生徒への支援 P.25

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

2-3-2. 学校内外のデータを活用した不登校児童生徒への支援 P.29

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

### 2-4. 学校運営・学級経営のために

2-4-1. 教育委員会から学校への支援 P.33

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

2-4-2. 学校の働き方改革の推進 P.36

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

### 2-5. 教育委員会による施策立案のために

2-5-1. エビデンスを踏まえた教育施策の立案・実行・改善 P.41

教職員	学校管理職	見える化	検証
児童生徒	教育委員会	共有	予測

※1：保護者に関しては当資料では扱いません。

※2：「見える化」は、主にグラフや表等でデータを視覚的に表現することを指します。平均値の算出や日ごとの変化を示す等、基本的な記述的分析は、効果的な見える化を行うために必要な前処理として見える化の一部に含まれます。一方、「検証」は、見える化において実施するような基本的な記述的分析に加えて、相関関係の発見等、より高度な分析手法を用いる場合を指します。ここでの分析は、単なる記述を超え、データのより深い解釈や統計的な検討を含みます。

## 2-1. 授業改善に向けた教育データ利活用

- 2-1-1. 学習データを活用した授業改善

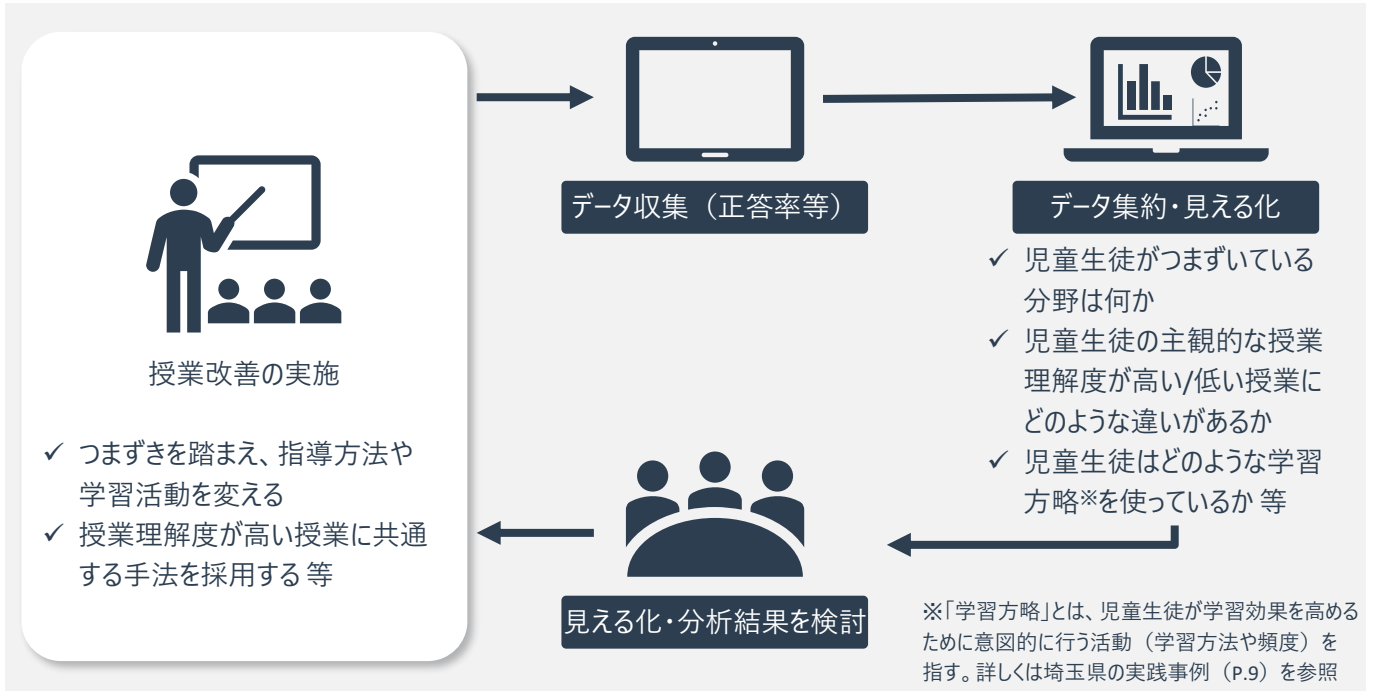
P.5

## 2-1-1. 学習データを活用した授業改善

### 概要

日々のデジタル教材上の正答率や取組状況、定期・単元テストの結果、全国/地方の学力・学習状況調査の結果等をもとに、児童生徒がつまづいている箇所や、家庭学習の状況等を見える化・分析し、授業改善に役立てます。

### 取組イメージ



### 背景課題

1

- 児童生徒が具体的にどこでつまづいているか把握が難しく、**日常の授業改善は個々の教職員の経験頼り**になっている
- 校内研究の機会は限られ、教職員が**自分の授業を改善するためのインプットを受ける機会が少ない**

2

- 他の教職員から授業に対しフィードバックをもらう場面で、児童生徒の状況をわかりやすく伝える手段が不足しており、**共通認識を持ちづらい**

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

学習データ

- 単元・定期テスト結果
- デジタル教材上の正答率や取組状況
- 全国や自治体独自の学力・学習状況調査で測る学力
- 授業満足度アンケート
- 授業中の発話・アウトプット
- 学習指導要領コード等

### 活用による効果

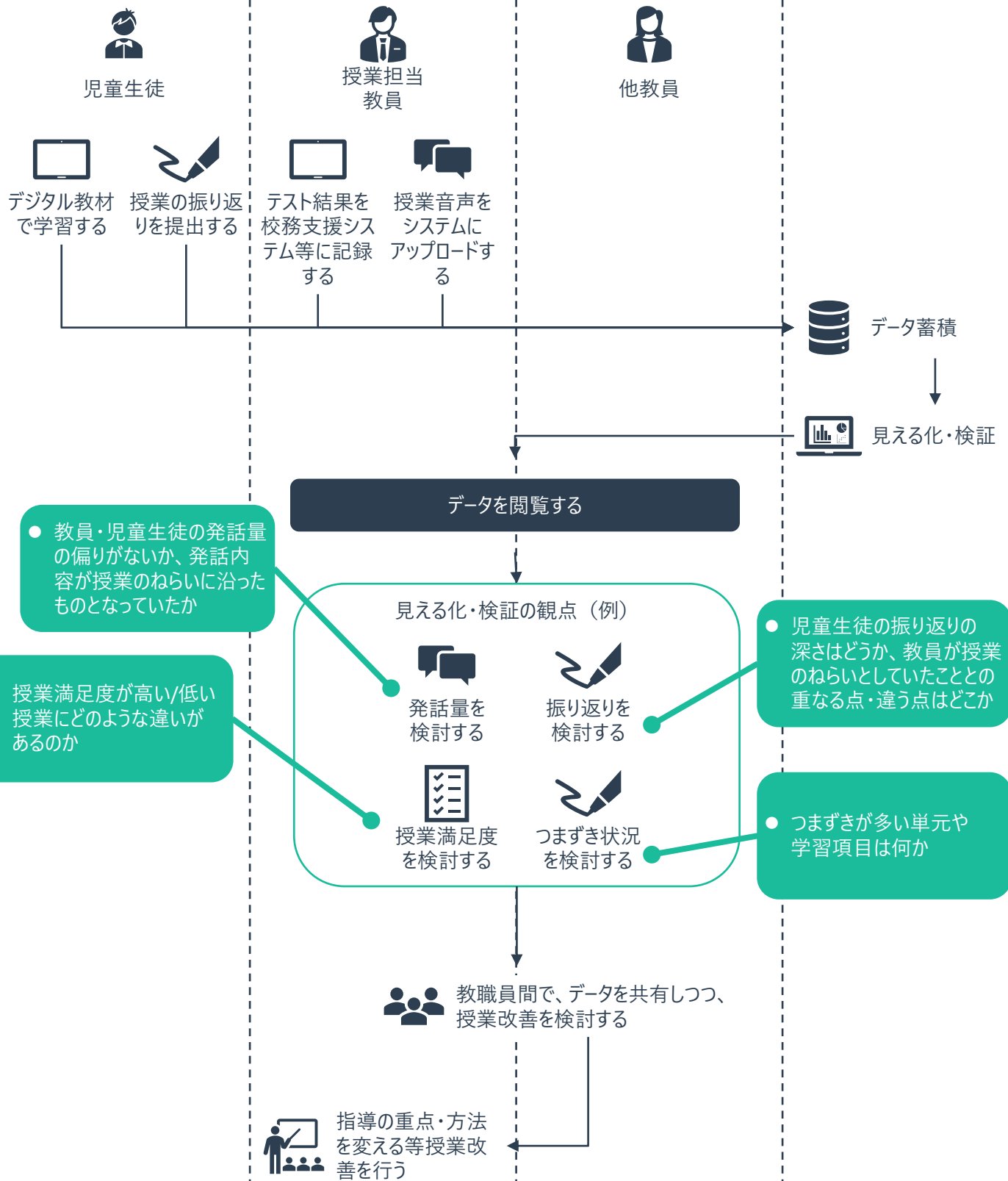
- 定期・単元テストや全国/地方の学力・学習状況調査だけでなく、日々のデジタル教材上での正答率や学習状況をもとに、**どこでつまづいているかをより頻度高く把握し、授業改善に繋げることができる**
- 公開授業以外でも短時間で集まり、教職員同士で授業改善の方策を検討しやすくなる
- データをもとに、児童生徒の状況を**他教職員にも共有**することができる

### 実践事例

- 栃木県矢板市「体力テスト結果の迅速な見える化による授業改善」・・・P.7
- 宮城県「『みやぎ学力状況調査』を踏まえた各校の教育活動の改善」・・・P.8
- 埼玉県「『埼玉県学力・学習状況調査』の分析支援による授業改善」・・・P.9
- 郡山市「授業中の発話量・内容の分析による授業改善」・・・P.10

# 利活用フロー（例）

2-1. 授業改善  
2-2. 個別支援  
2-3. 組織的な対応  
2-4. 学校運営・学級経営  
2-5. 施策立案



● 教員・児童生徒の発話量の偏りがなく、発話内容が授業のねらいに沿ったものとなっていたか

● 授業満足度が高い/低い授業にどのような違いがあるのか

● 児童生徒の振り返りの深さはどうか、教員が授業のねらいとしていたこととの重なる点・違う点はどこか

● つまづきが多い単元や学習項目は何か

**ポイント：「特別な場」以外でも日常的な授業改善に活用する**  
 ✓ 教職員同士の授業改善の検討というと、これまで公開授業等、「特別な場」が主であったが、データを活用することで「このクラスはこんな状況だが、どう改善できるか？」等、気軽に相談しやすくなる

# 栃木県矢板市 体力テスト結果の迅速な見える化による授業改善

矢板市では、児童生徒の運動機会減少による、体力低下に課題意識がありました。モデル校3校（小2校・中1校）で体力テスト結果を迅速に見える化することで、改善が必要な分野を授業や業間の体力づくりに反映しています。

## 背景課題

- バスで登下校する子が増える中で、児童生徒の**運動機会が減っており**、体力テストの結果でも持久力に特に課題があることが分かっている
- 体力テスト結果の学校返却が遅く、**その年度の授業改善に活かすことができない**

## 取組内容

- 体力テスト結果を児童生徒自身または教員がアプリに入力する
- 即時に結果がグラフ等で表示される。全国との比較等も結果で表示される

## 取組による効果

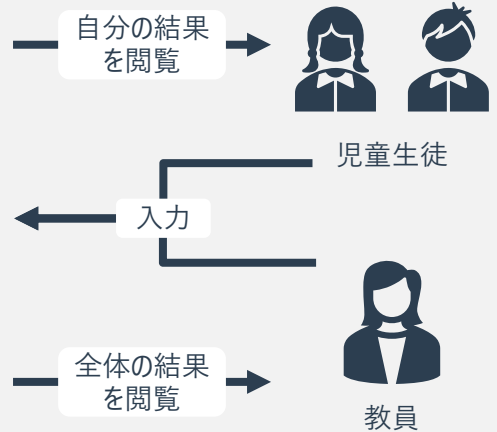
- 児童生徒の体力状況を見える化することで、教員・児童生徒ともに、**どこに課題があり、何に取組めばいいのかが分かる**ようになった
- **体力テストの結果がすぐ集計され、閲覧できる**ことで、授業や業間の体力づくりに年間を通して反映することができる

## 取組イメージ

- データ項目
- 基本情報
  - 健康情報（身長/体重）
  - 体力テスト結果（項目ごと）

児童生徒ごとの個人結果

**ポイント①：児童生徒が自分で振り返り**  
 ✓ 児童生徒に自分の結果が即時フィードバックされ、個別化されたコメントもつくため、自立的に体力づくりに取り組める

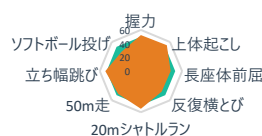


## A小学校の体力テスト結果

学年	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール投げ
1年	11.0	14	23	24	22	10.8	110	8
2年	13.5	17	28	28	28	10.2	120	12
3年	16.0	20	30	32	37	9.8	132	15
4年	19.0	23	33	36	48	9.3	142	19
5年	22.5	26	36	40	60	9.0	152	26
6年	26.0	29	39	44	73	8.7	162	33

小学校1年生

- 全国
- A小学校



**ポイント②：授業へ即時に反映**  
 ✓ すぐに結果が分かるため、国・教育委員会での集計を待たずして授業で重点化して取組みたい領域等を特定できる

体力テストの結果がすぐに児童生徒・教員にフィードバックされるため、**伸ばすべきところをすぐ把握し、年間の活動に反映**することができています。近年、児童生徒の体力低下が課題となっているため、その課題に効果的に対応できる取組として、今後も市内で広げていきたいと思っています。  
 （矢板市教育委員会 担当者）

# 宮城県

## 「みやぎ学力状況調査」を踏まえた各校の教育活動の改善

宮城県では、高校1年生・2年生において「みやぎ学力状況調査」という調査を平成15年度から行っています。平成24年度からは、以下のような分析システムを使い、県立高校全校で実情に合わせた分析・施策立案に生かしています。

### 背景課題

- 各校でカリキュラムマネジメントを行うために、**教育活動の効果や課題を評価**する必要がある

### 取組内容

- 高校1、2年生において「みやぎ学力状況調査」という調査を実施し、各学校が分析システムを用いて結果を簡単に分析できるようにしている
- 学校ごとに学力向上等に向けた具体的な対策や取組を立て、教育委員会に報告し、教務主任会議等で内容を検討する

### 取組による効果

- 県全体の結果を見るだけでなく、各校が自分たちで**教育活動の改善サイクル**を回すことができる
- 具体的には、家庭学習の手立てやその内容を変えるといった取組や、スマートフォンの使用時間が気になる生徒への声かけ、三者面談での情報活用等に繋がっている

### 取組イメージ

**分析システム**

国語 第1問

- 大問正答率
- 問1正答率
- 問2正答率
- 問3正答率
- 問4正答率

2. 心身の健康、志教育等

- (1)-1. 毎日同じくらいの時刻に寝ている
- (1)-2. 体調はよい
- (1)-3. 熟睡ができています
- (2)-1. 学校生活に充実感や満足感を感じている

**ポイント①：分析システムを使い、各校が独自の分析**

- ✓ 一つの指標の傾向を見たい、2つの指標を組み合わせたい等、分析者のニーズにあわせて、簡単に分析ができる
- ✓ 自校と全校の比較を行うこともできる

みやぎ学力状況調査の実施 → 教育委員会で学校ごとの分析を実施・共有 → 各校で分析 → 教育委員会が示すフォーマットに沿って報告 → 教育委員会主催の教務主任協議会で各校の取組を検討

**データ項目**

- 教科ごとの学力（全体正答率・大問/小問正答率）
- 学習状況に関する質問結果（進路希望、授業理解度、授業での目標や振り返りの提示有無、スマホ使用時間、睡眠、体調、学校生活への満足感等）

令和7年度「みやぎ学力状況調査」結果分析  
宮城県立xxx高等学校

- 第1・2学年学習状況
- 義務教育段階において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により教育活動等を制限された現高校1年生・2年生と、教育活動を制限されていなかった平成30年度及び令和元年度の生徒のデータを比較して、どのような変化や違いがみられるか。
  - 分析内容  
Q「〇〇」とQ「〇〇」について、平成30年度及び令和元年度の結果と比較し、その変化を考察する。
  - 分析結果及び結果読取等  
Q「〇〇」で「当てはまる」と回答したものは令和元年度から同学年で〇〇.〇%→〇〇.〇%と〇.〇ポイント下がった。昨年度の1年次から今年度の2年次にかけては、〇〇.〇%→〇〇.〇%と〇.〇ポイント下がっており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、〇〇することが制限されたことで、生徒の〇〇等の資質・能力に変化が出ている。  
※必要に応じてグラフ等を活用
  - 今後の対策  
個々の質問紙調を把握する。生徒担任面談で生徒を通じて、生徒の意見を聞きながら、〇〇
- スマートフォン等の使用

**ポイント②：分析フォーマットの提示**

- ✓ 分析フォーマット内で、記載例を示すことで、各校で分析をどのように進めればよいのかが分かるようにする
- ✓ 分析フォーマット内で、教育委員会として特に重点的に分析したい・今後の取組に繋げたい事項を示すことで、教育委員会の方向性と各校の取組を合わせることができる

学校ごとに、**経年の学力や学習状況の変化**を見られるため、これまでの教育活動にどのような効果があったのか・どこに課題があるのか・今後どのような取組をすべきかを考えるために、とても役立っていると思います。（宮城県教育委員会 担当者）

# 埼玉県 「埼玉県学力・学習状況調査」の分析支援による授業改善

埼玉県では、県内全小・中学校（さいたま市を除く）で、小学校第4学年から中学校第3学年まで、継続的に学力を調査する「埼玉県学力・学習状況調査」を通して、学力の伸び等を測定しています。県教育委員会からは各校の分析を支援する研修等を行っています。

## 背景課題

- 県全体の学力が全国平均より低く、**学校が自らの課題を把握して改善を行うための仕組みを整える必要があった**

## 取組内容

- 小学校第4学年から中学校第3学年まで、パネルデータで個人の学力の推移を調査する「埼玉県学力・学習状況調査」を実施している
- 県教育委員会から各校の分析を支援するデータを配布すると共に、各校の結果を読み解き、指導改善に向けた施策を立案する教職員向けの研修等を実施している

## 取組による効果

- 学校が「埼玉県学力・学習状況調査」を分析することで、どのような授業改善に繋げることができるか検討し、**具体的な授業改善の手立てが立案**されている

## 取組イメージ

### データ項目

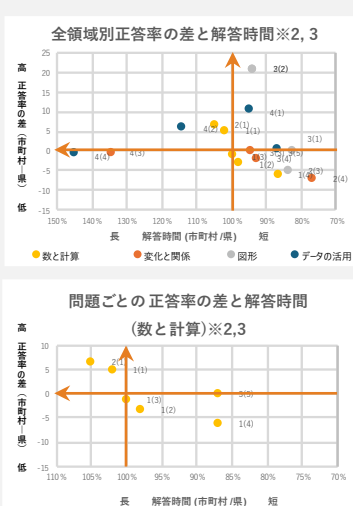
#### ■ 教科ごとの学力

- 学習方略※1
  - ・ 柔軟的方略
  - ・ プランニング方略
  - ・ 作業方略
  - ・ 認知的方略
  - ・ 努力調整方略

#### ■ 非認知能力

- ・ 自己効力感
- ・ 自制心
- ・ 勤勉性
- ・ やりぬく力
- ・ 向社会性

#### ■ 解答ログ



### 分析のポイント(例)

- 解答にかけた時間、見直し時間等と学力の相関はどうだろうか？

- 自分のクラスにおいて、県平均よりも平均正答率が高い・低い分野はどこだろうか？

※以下の分野ごとに確認

- ・ 教科の領域 (e.g., 数学における数と式、図形、関数等)
- ・ 評価の観点 (知識・技能 / 思考・判断・表現)
- ・ 問題形式 (選択式、短答式、記述式)

- 自分のクラスにおいて、どのような解答の傾向が確認できるか？ また、傾向を踏まえると授業改善に必要なことは何か？

- ・ 解答時間が長く、正答率が高い⇒思考を整理する力が必要
- ・ 解答時間が長く、正答率が低い⇒基礎・基本の徹底が必要
- ・ 解答時間が短く、正答率が高い⇒発展的な学習の取入れが必要
- ・ 解答時間が短く、正答率が低い⇒粘り強い姿勢が必要

※1 学習方略の定義・詳細は「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査報告書」P.13を参照  
 ※2 グラフは「令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査報告書」を参考に作成  
 ※3 グラフ内矢印は、県平均解答時間や正答率を示す

県教委は、埼玉県学力・学習状況調査でデータを取得

県教委より、結果帳票を活用し、分析に関する研修を実施

学校は、具体的な改善の方策を校内で決定し、実行

学校は、施策の効果を検証するために次年度にデータを確認

### 施策検討(例)

- 気になる児童生徒に対する具体的な手立ての検討
- 特に課題がある分野に関して、授業中や家庭学習を通じた復習・授業改善
- 学力を伸ばした教員が行っている効果的な取組を校内で共有

「埼玉県学力・学習状況調査」は既に長年取り組んでいるものですが、近年、学校においてより活用していただくために、学校・学年・クラス単位での分析をサポートするデータを改良したり、学校における分析をサポートする研修等を開催したりしています。研修では、**ワークショップ形式で分析の手法や観点をお伝えし、校内で実際に授業改善の手立て等のアイデアをその場で出す**ことで、実際の授業改善に繋がっていると感じます。(埼玉県教育委員会 担当者)

# 郡山市 授業中の発話量・内容の分析による授業改善

郡山市では、研究指定校及び新規採用者において、授業中の教員・児童生徒の発話比率を分析し、特に若手教員の指導力向上を目指しています。発話内容と共に検討することで、具体的に振り返ることができ、授業改善に繋がっています。

## 背景課題

- 若手教員の育成が急務であり、**授業改善に向けて効果的な対策**が必要である

## 取組内容

- 音声データの専用分析ツールに、授業の音声・動画をアップロードすると、教員・児童生徒の発話の比率が授業が進むと共にどのように変化していったかがグラフとして出力される
- また、授業中の発話が文字起こしされる

## 取組による効果

- 学年や教科にもよるが、教員の発話比率を見て、「**意外と自分（教員）の発話が多かった**」等、**教員の気づき**に繋がる
- 授業中の発話の文字起こしと合わせることで、「このタイミングで、この発話があったから、その後の発話が促された」等、**具体的に振り返**ることができる

## 取組イメージ



若手教員支援のために始めたものですが、若手に限らず、ベテランの教員でも「自分がこんなに話していると思わなかった。数字で見ると自分が思っていたのと違う」といった気づきがあるようです。グラフになって出てくることで、状況が掴めるのが良いと思います。また、文字起こしがあることで、研究授業後の研究協議も、児童生徒の具体的な発話に基づいて検討する等、より具体的に踏み込んで話すことができるようになりました（郡山市教育委員会 担当者）

# コラム：教育データの「見える化」パターン

当ユースケース集では、「何のために」「誰が」「どのように」使うのかという3観点からユースケースと事例を整理しています。当コラムでは「どのように」教育データを利活用するのかという方法に着目し、まず、「見える化」の活用方法をまとめました。教育データ利活用の目的達成に向けて方法を検討するための一助としていただければと思います。

※「検証」の活用方法についてはP.44、「予測」の活用方法についてはP.28でまとめます。  
※当コラムで扱うデータはイメージであり、実際の事例からの結果を示すものではありません。

## 見える化

### 児童生徒ごと・クラスごと・学校ごとの状況を把握する

#### 1. 平均値・中央値や、割合に注目

学力テストの平均点や、出席率、朝食を食べた割合等代表的な指標を算出することで、**全体の傾向や大きな問題点を把握**できます。例えば、クラス同士の平均値を比較することで、クラス間の違いを明確にし、どのクラスに重点を置くべきかの判断材料を手に入れることができます。



算数のテストの平均点が低いクラスはどこか



平均点が低いクラスについては、授業で基礎事項の復習を重点的に行う

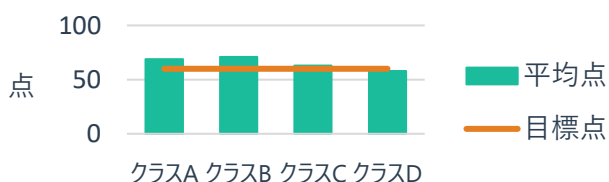


市内の学校で、児童生徒の欠席日数は多いか

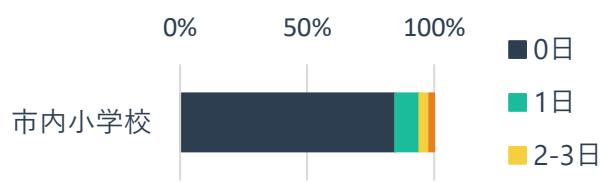


そもそも、全体的に問題があるかどうかを把握する

算数の平均点



欠席日数の割合



#### 2. 分布に注目

平均値や割合だけでは、**集団の中に潜むばらつき**を見逃してしまいます。例えば、同じ平均点60点でも、60点前後に集中しており、目標点に概ね到達した場合と、高得点層と低得点層がいて、低得点層には集中した支援が必要な場合があります。分布に注目することで、**きめ細かい実態把握・支援**に繋がられます。箱ひげ図やヒストグラムを使うと、直感的に把握しやすいです。



クラス内のテスト得点分布はどうなっているか



低得点層が多いクラスでは、補習や個別指導を実施する

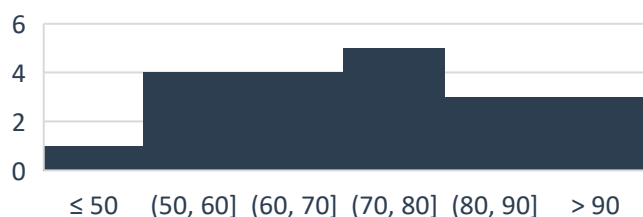


各学校の教職員の働きがいスコアの分布はどうなっているか



分布が大きくばらついている学校には、学校管理職へ状況の聞き取りを行う

算数の得点分布



教職員の働きがいスコア



# コラム：教育データの「見える化」パターン

## 3. 時系列による変化に注目

データを時系列で追うことで、**特定の時期に起こる変化や問題の発生時期を把握**できます。一時的・短期間のデータだけでは見えないトレンドや傾向を発見することで、早期の課題発見や効果的なタイミングで対応が可能となります。折れ線グラフや時系列ヒートマップを用いると、変化の流れを直感的に把握できます。



クラスの1年間の漢字テスト平均点はどのように推移しているか



成績が下がった時期の指導方法や教材より、原因を検討し、見直す

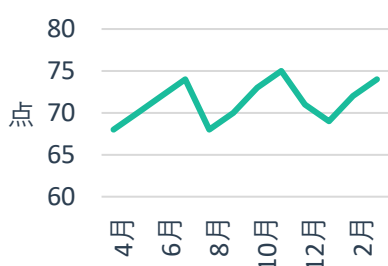


各校の過去5年間の不登校率はどのように推移しているか



不登校率が急増した学校には、原因調査や追加支援を行う

漢字テストの点数の推移



不登校率の推移

年度	第一小	第二小	第三小	第四小	第五小
2019年	1.2%	2.5%	1.0%	3.0%	0.8%
2020年	1.5%	2.8%	1.1%	3.5%	1.0%
2021年	1.6%	3.2%	1.3%	4.0%	1.2%
2022年	2.0%	3.8%	1.5%	4.8%	1.5%
2023年	2.5%	4.5%	1.7%	5.2%	1.7%

## 4. 複数データの交差点・交差していない部分に注目

異なる種類のデータを組み合わせることで、「**どの層・条件に特に課題が集中しているか**」を明らかにできます。例えば、学力と生活習慣、出席状況と家庭環境等をクロス集計し、両方の状況に課題がある児童生徒を把握することで、重点的な支援対象を見つけることができます。



朝食を食べておらず、かつ、テストの得点が60点未満の児童はどれくらいいるか



この層に生活習慣指導や個別フォローを重点的に行う

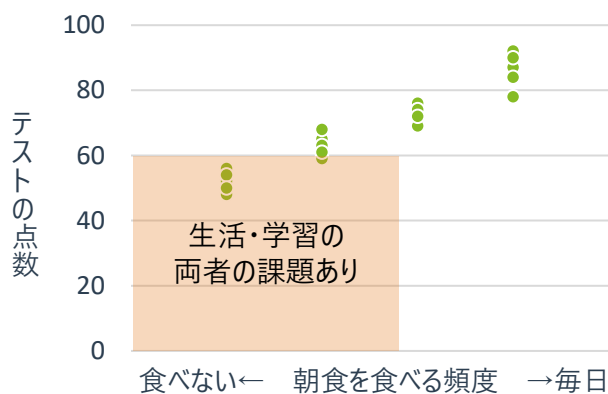


教職員の負担感が大きい一方で、やりがいが高い業務は何か

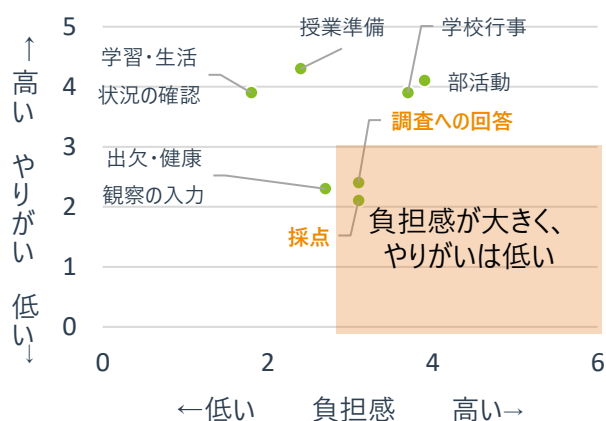


該当する業務を優先して見直す

生活習慣×学習状況



業務見直し



## 2-2. 個別支援に向けた教育データ利活用

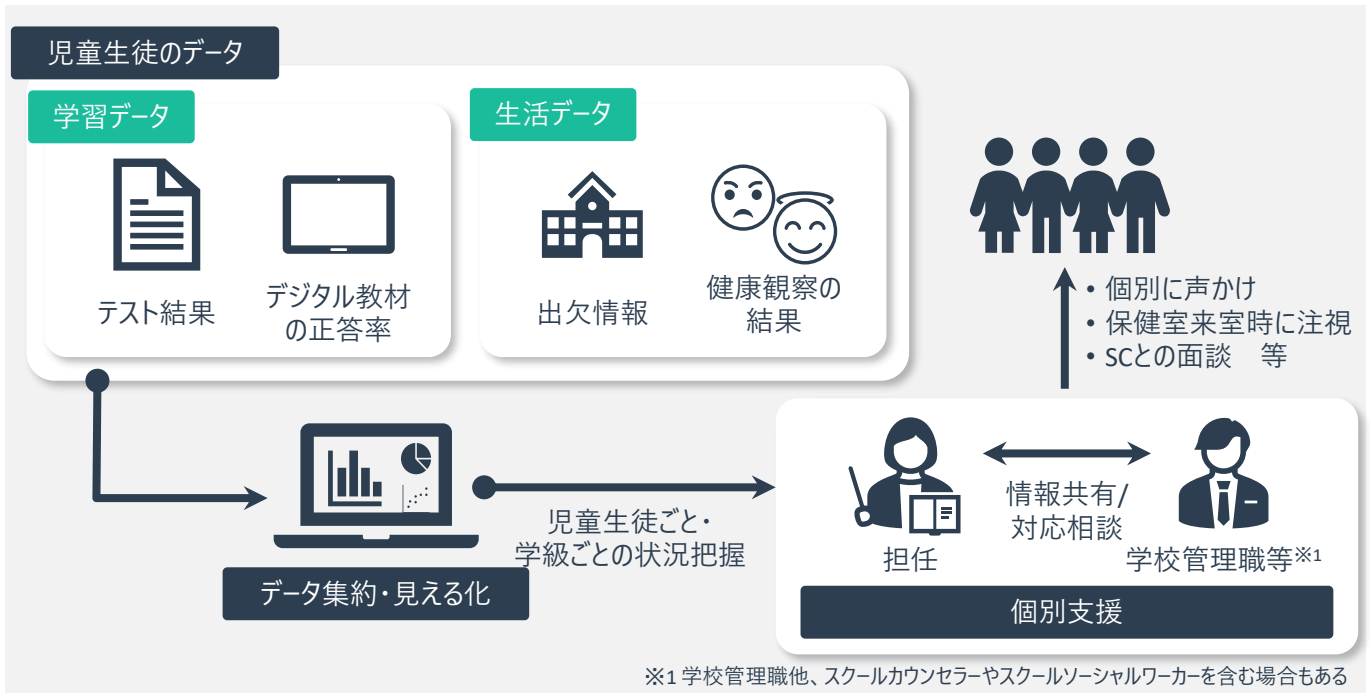
- 2-2-1. 学習・生活データを活用した個別支援 P.14
- 2-2-2. 学習・生活面の自律的な振り返り・改善 P.20

## 2-2-1. 学習・生活データを活用した個別支援

### 概要

学習データと生活データを組み合わせ、児童生徒の学習状況や生活習慣、心身の健康状態を把握し、個別の支援に繋がります。

### 取組イメージ



### 背景課題

1

- **限られた業務時間内**で、顕在化した課題を抱える児童生徒への対応はしつつも、**潜在的な課題を持つ児童生徒を見落とし**してしまう

2

- 教職員の**属人的なスキル・経験に頼った声かけ**となっている
- 担任以外は児童生徒の様子が分りにくい

### 活用による効果

- 多角的なデータを参照して個々の児童生徒の状況を把握することで、学習面のつまずきや生活面での懸念事項に**早期に気づき、対応**できる
- **担任以外も日々の児童生徒の様子を把握**しやすくなり、学校管理職や学年主任、養護教諭が必要に応じて担任をフォローしたり、教職員全体で同じデータを見て、対応を相談したりしやすくなる

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

学習データ

- 単元・定期テスト
- デジタル教材上の正答率や取組状況
- 学力・学習状況調査
- 授業満足度アンケート
- 授業中の発話・アウトプット 等

生活データ

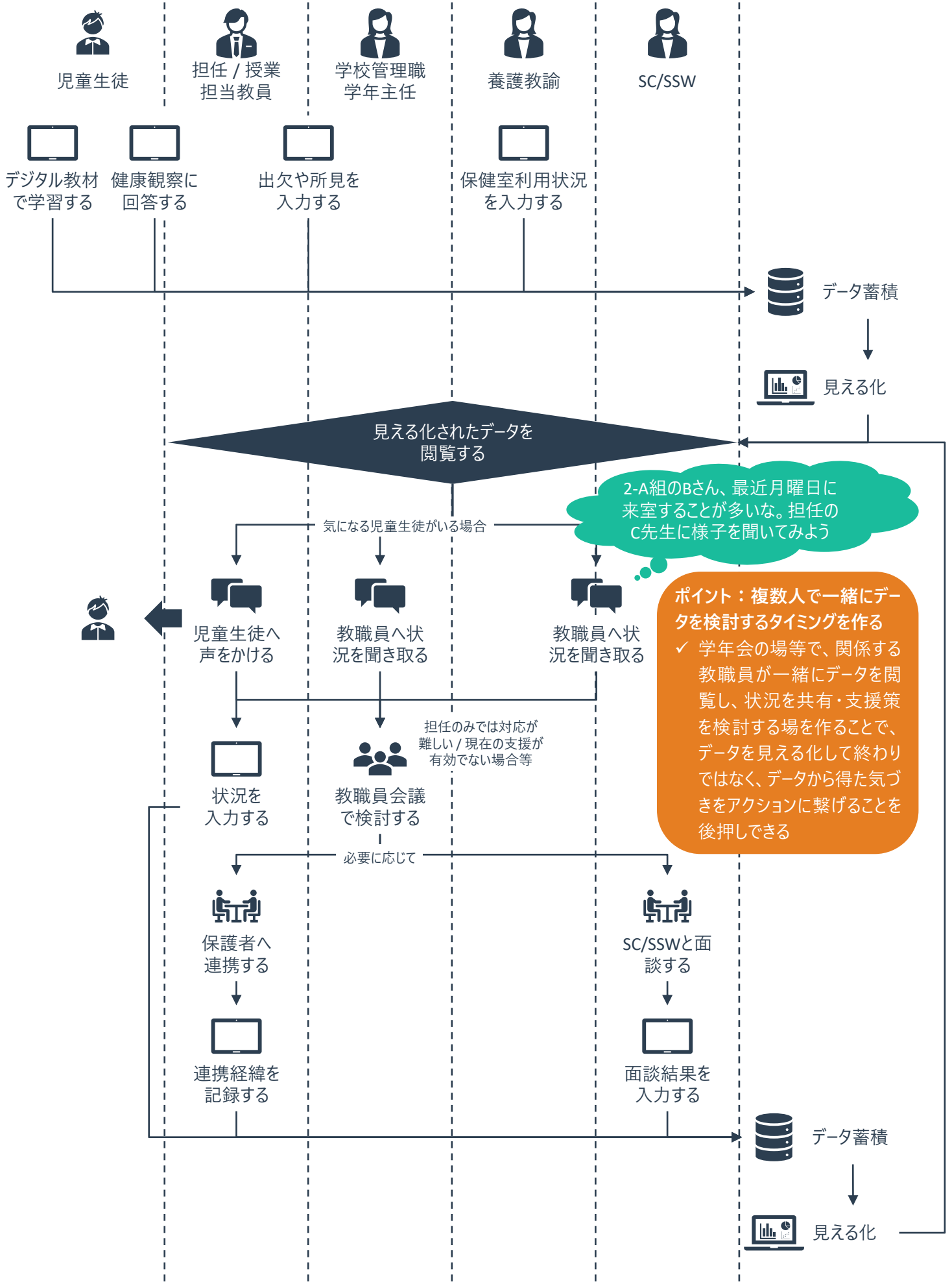
- 出欠、健康観察結果、生活習慣の記録
- 保健室来室の記録
- 教職員の所見・対応の記録
- 学校・学級満足度 等

### 実践事例

- 群馬県吉岡町「日々の健康観察×月次のいじめアンケートを通じた早期支援」・・・P.16
- 山梨県甲府市「心の健康観察×端末ログで、生活習慣の改善」・・・P.17
- 岐阜県岐阜市「朝夕の心と体の健康観察による児童生徒が安心できる支援体制づくり」・・・P.18
- 愛知県田原市「日々の様子を蓄積し、児童生徒理解の促進・保護者対応の改善」・・・P.19

# 利活用フロー（例）

2-1. 授業改善  
 2-2. 個別支援  
 2-3. 組織的な対応  
 2-4. 学校運営・学級経営  
 2-5. 施策立案



# 群馬県吉岡町 日々の健康観察×月次のいじめアンケートを通じた早期支援

吉岡町では、町内全小中学校で、児童生徒の日々の健康観察（睡眠・朝食・体調・気分等）と、月1のいじめアンケートを自動でダッシュボードに連携・見える化し、教職員全体で児童生徒の様子を見守り、早期支援に繋がっています。

## 背景課題

- 学校に来ていない児童生徒について、心の状態の把握が難しい
- 担任個人の感覚だけでは、児童生徒の変化を見逃してしまうことがある

## 取組内容

- 登校していない児童生徒を含め、オンラインで朝に心の健康観察やアンケートを行い、日々の健康観察・月次のいじめアンケート結果について、ダッシュボード上で表・グラフ等で分かりやすく表示する

## 取組による効果

- 学校に来ていない児童生徒についても把握ができる
- 複数の目で児童生徒を見守り、日々の変化から声をかけることで問題の深刻化前に対処できる
- 児童生徒自身も自分の心の状態や生活習慣を把握することで、自己調整に繋がる

## 取組イメージ

**今日の健康観察**

クラス全体	
体調	気分
症状数	
元気 24	
鼻水 2	
せき 0	
風邪 1	
頭痛 0	
相談あり 1人	

気分

- うれしい、たのしい
- ふつう
- つらい、かなしい
- いらいらする、おこっている

未回答者一覧  
山田 太郎  
鈴木 花...

**個人**

名前	体調	気分	睡眠	朝食	コメント	相談
	👍	😞	○	○		
	👍	😊	○	○		
	👎	😞	○	○		ある
	👍	😞	○	×		

**ポイント①：注意コメントの自動抽出**  
「死にたい」「最悪」「けんか」等、注意コメントを事前に設定し、該当コメントは自動で抽出

注意コメント		睡眠の状況	
名前	コメント	名前	眠れていない割合
佐藤 健太	おかあさんのきげんがわるい	中村 彩香	10%
中村 彩香	家で弟とけんかしてしまい、イライラした		
加藤 莉子	家のいんこが死んだ		

**ポイント②：複数の目で確認**  
担任だけでなく、複数の目で確認し、児童生徒の小さな変化に気づく

**いじめアンケート**

名前	先生に話したいこと	学校は楽しい？	勉強はよくわかる？	学校で嫌なことは？	インターネットで人を傷つけていない？
		はい	はい	ない	はい、傷つけていません
	ちょっと嫌なことがあります	ふつう	はい	ない	はい、傷つけていません
		いいえ	ふつう	ない	はい、傷つけていません

**データ項目**

- 健康観察の結果（体調・気分・睡眠状況・朝食状況・コメント・相談の有無）
- いじめアンケートの結果（学校は楽しいか、学校で嫌なことはないか等）



担任が日々確認



教職員全員で確認

※中学校では週1の生徒指導部会 / 小学校では学年ごとに共有の上、月1の運営委員会（学校管理職・学年主任）の場で共有

先生方からは、健康観察結果が会話のきっかけとなり、児童生徒指導・支援が充実したり、問題の早期発見に繋がったりしていると聞いています。

今後は、児童生徒がより入力したい・見たいと思うものにして、児童生徒自身が自律的に生活習慣の改善を行えるような取組にしていきたいです。総合的な学習の時間等とも結びつけることができるのではと思っています。（吉岡町教育委員会 担当者）



# 山梨県甲府市 心の健康観察×端末ログで、生活習慣の改善

甲府市では、市内全小学校で、心の健康観察結果や端末使用状況等を「こうふのたからばこ」というデータベースに集約し、ダッシュボード化しました。日々の心の健康観察に加え、端末使用状況も見ることで、生活習慣の改善へアプローチしています。

## 背景課題

- 子どもの状況について、感覚的には教員が把握していても、**教職員全体で状況を共有して、会話することができていない**

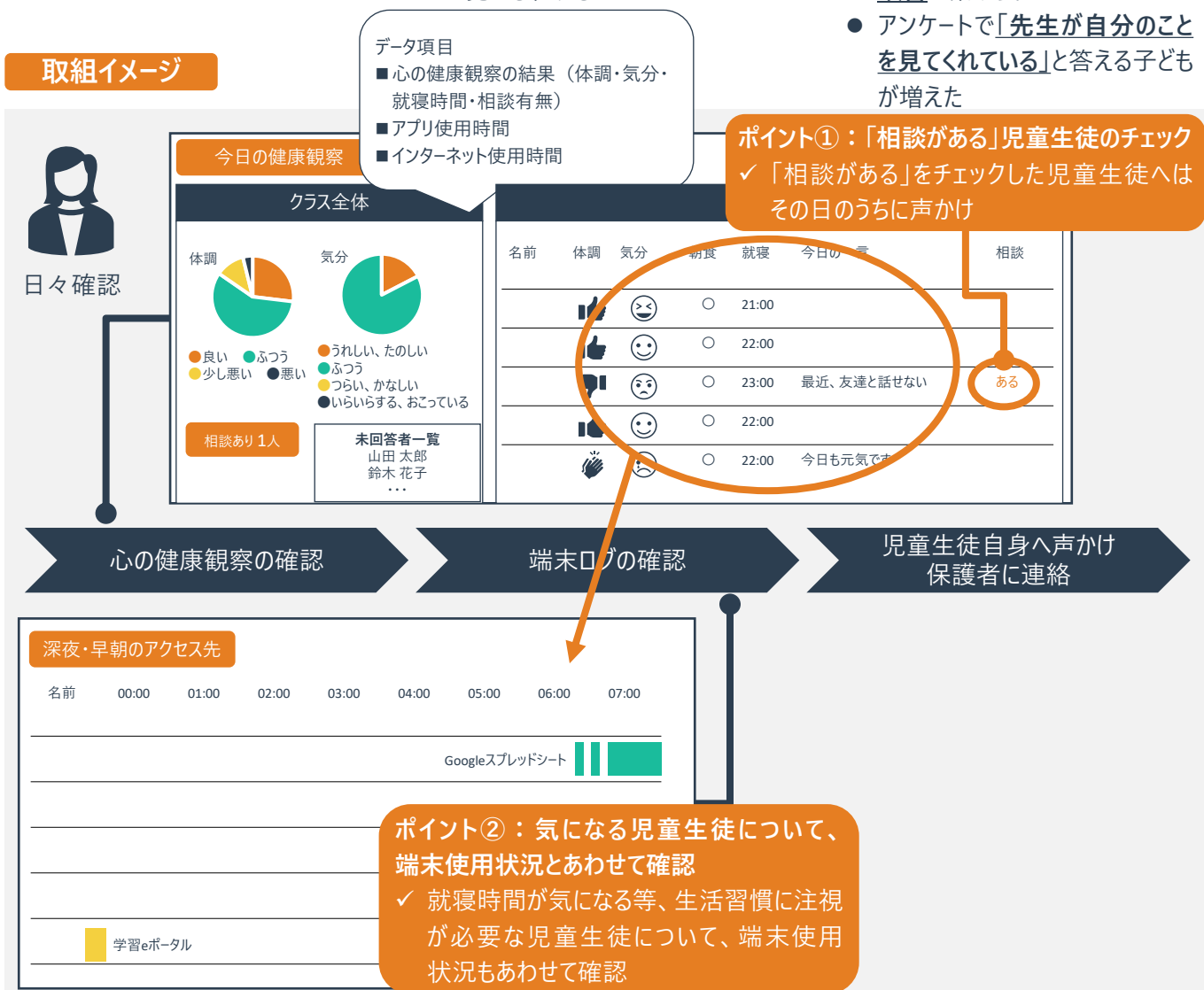
## 取組内容

- 教科書やドリルアプリの使用状況、心の健康観察結果等を「こうふのたからばこ」というデータベースに集約し、ダッシュボード上で表・グラフ等で分かりやすく見える化する

## 取組による効果

- 教員が子どもの変化に敏感になり、**声かけをする機会が増えた**
- 心の健康観察で気になった児童生徒について端末ログを確認し、**保護者とも連携して生活習慣改善へ繋げられた**
- アンケートで「**先生が自分のことを見てくれている**」と答える子どもが増えた

## 取組イメージ



※端末ログを教職員側で確認できる旨は児童生徒に説明の上、当取組を実施

児童生徒に係る様々なデータを「こうふのたからばこ」というデータベースに一元化することで、多角的なデータをもとに児童生徒の状況を把握することが可能となりました。今後はより高度な分析等にも活用していきたいと思っています。（甲府市教育委員会 担当者）

# 事例

## 岐阜県岐阜市

### 朝夕の心と体の健康観察による児童生徒が安心できる支援体制づくり

岐阜市では、市内全小中学校・義務教育学校で、朝夕2回、児童生徒がタブレット上で心と体の健康観察に回答します。スコア低下や「話を聞いてほしい」の選択があった児童生徒には教員がいち早く声かけをする等、児童生徒が安心できる支援体制づくりを行っています。

#### 背景課題

- 教員が児童生徒の様子を把握するには、**限られた業務時間内では限界があり、思い込み**によって見落としてしまう変化がある
- 「困っている」「聞いてほしい」という気持ちをリアルな場で発信することが難しい児童生徒がいる

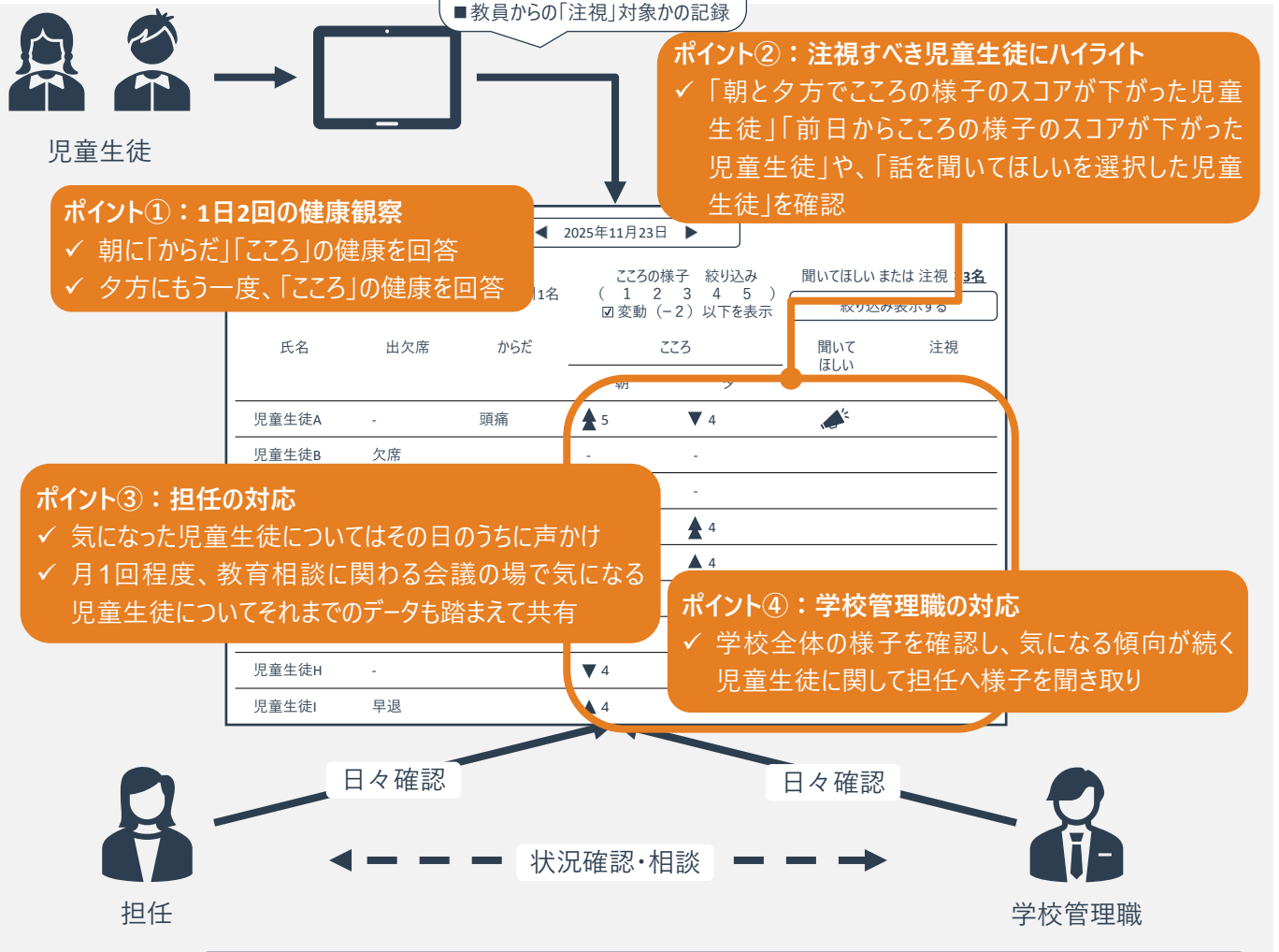
#### 取組内容

- 朝夕2回の健康観察を行い、結果を表・グラフで分かりやすく表示する
- 健康観察では、児童生徒が先生に話を聞いてほしいかを選択できる

#### 取組による効果

- データとリアルでの教員の見取りをかけあわせ、**迅速かつ手厚い支援**を行うことができる
- リアルでは課題が見られないが、**タブレット上では気になる変化を示す児童生徒へ声かけ**できる
- 学校管理職もデータを見ることで、**担任だけで抱え込むことなく組織的な対応に繋がる**

#### 取組イメージ



デジタル上での健康観察を活用するということは、それらに依存するという意味では全くありません。こころの状態について実際とは異なることを入力したり、そもそも回答することが難しい児童生徒もいます。それらもあわせて、**教員が見極め、適切な支援を行うことが重要**です。岐阜市では、教員がリアルで見取る児童生徒の姿と、デジタル上の健康観察結果をうまく組み合わせ、**児童生徒が安心できる支援体制づくり**に引き続き取り組んでいきます。（岐阜市教育委員会 担当者）

# 事例

## 愛知県田原市

### 日々の様子を蓄積し、児童生徒理解の促進・保護者対応の改善

田原市では、市内全小中学校で、校務支援システム上の「日々の様子」に担任をはじめ教職員が気になった児童生徒の様子を記録し、それを毎月の児童生徒理解委員会で共有し、教職員全体での児童生徒理解促進に繋げています。

#### 背景課題

- 紙媒体に記録を残すと**個人情報漏洩の懸念**がある
- 進級・進学の際に、**過去の様子を十分に伝えられない**
- そのため、児童生徒や保護者に**過去の状況を踏まえた対応を行うことができない**ことがある

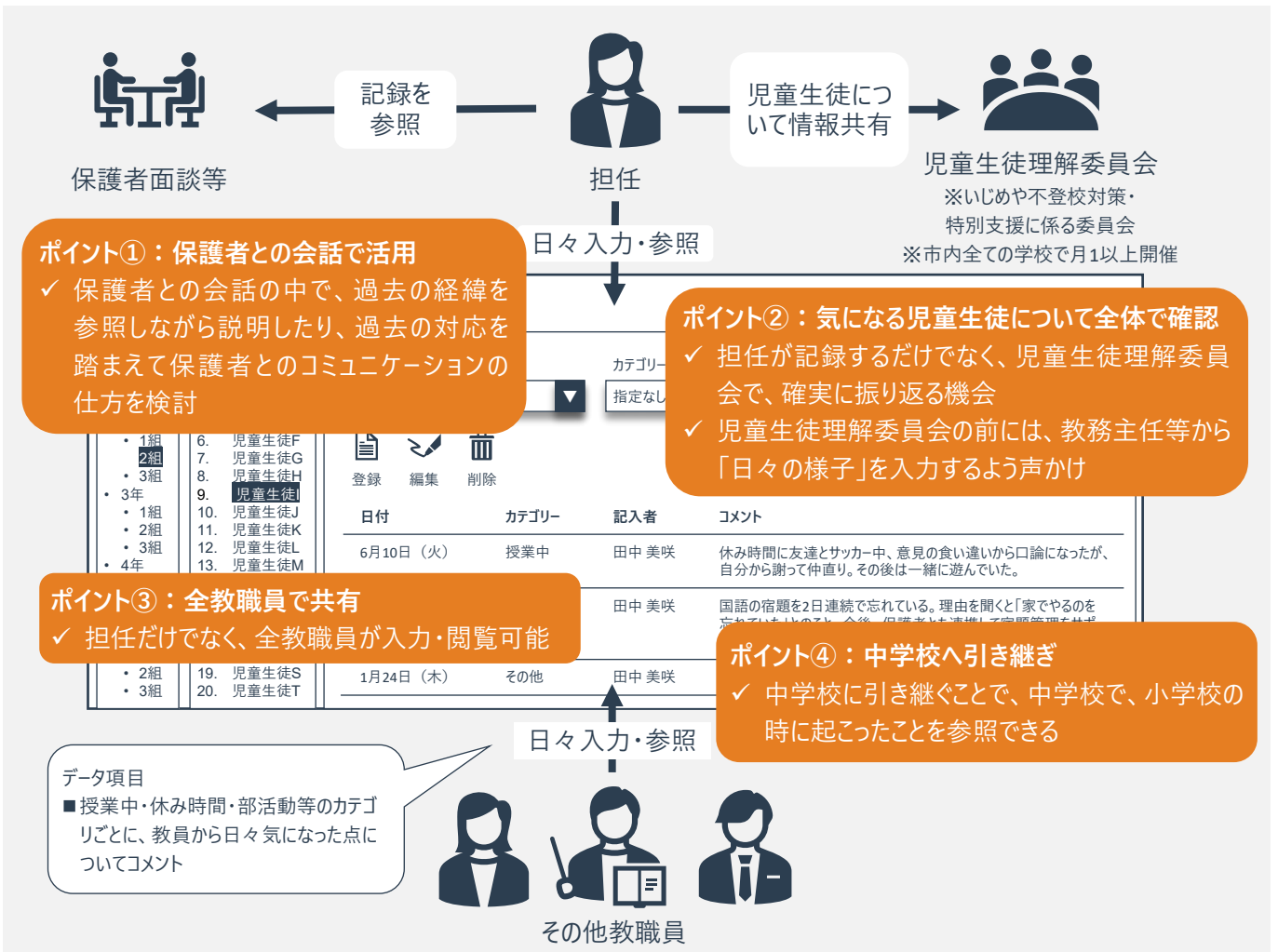
#### 取組内容

- 校務支援システム上に、児童生徒の様子等を記録する
- 月次の児童生徒理解委員会で共有する

#### 取組による効果

- 校務支援システム上で完結し、**個人情報漏洩リスクが減少**した
- **過去にどのような対応を行ったのか参照**できる
- 過去の出来事や対応を踏まえて、保護者と会話をできることから、**保護者の「分かってきている」「ちゃんと共有してくれている」という安心感に繋がる**

#### 取組イメージ



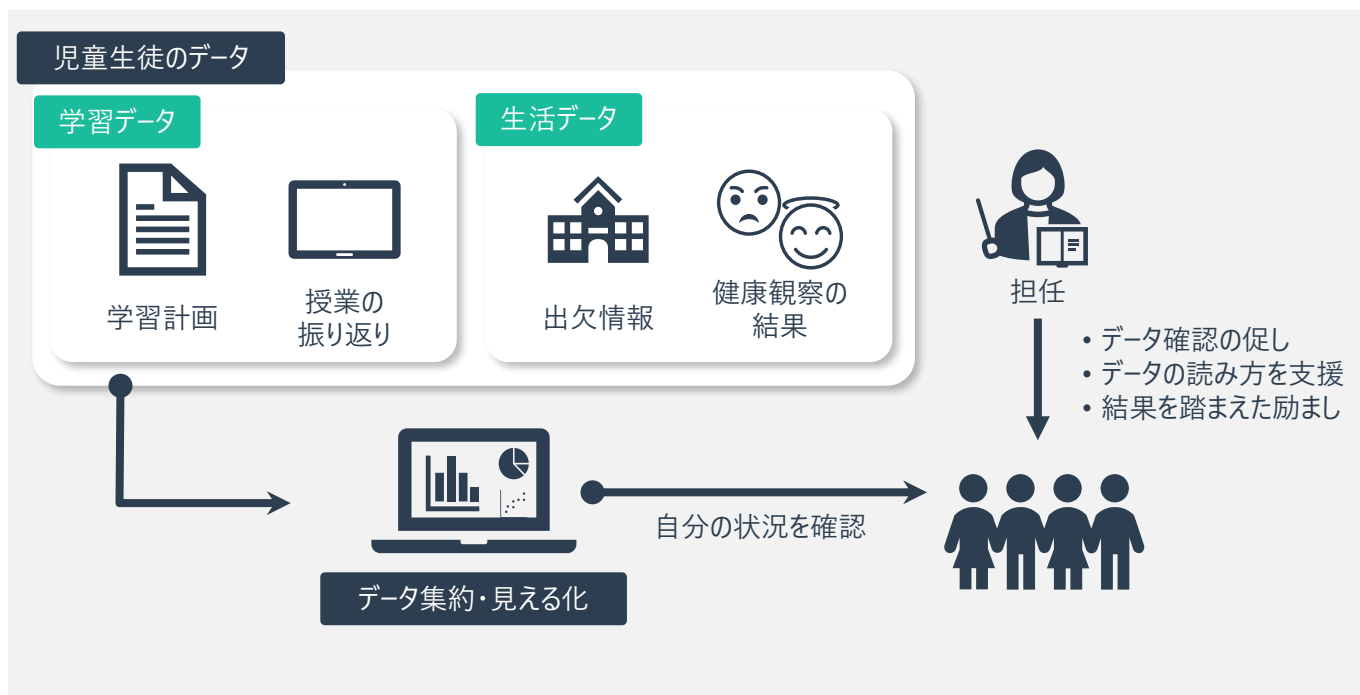
学校は、保護者と信頼関係を築き、対話することを大切にしています。過去の状況を共有することで、「前の担任の先生に伝えたのに」と言った保護者の不満が軽減されます。過去の状況を踏まえて判断することで、適切な対応が可能となります。常に「日々の様子」を記録することで、**保護者との信頼関係の構築**に繋がっています。(田原市教育委員会 担当者)

## 2-2-2. 学習・生活面の自律的な振り返り・改善

### 概要

児童生徒に向けて、学習や生活の目標、日々の学習状況・生活習慣等が見える化し、自らの振り返りを促すことで、学習・生活習慣の改善や定着を図ります。

### 取組イメージ



### 背景課題

1

- 学習・生活習慣をつけるために声かけはするものの、児童生徒は受け身で聞くだけであり、**自律的な改善行動に繋がっていない**

2

- 児童生徒が**自らの学習におけるつまづきや、学習における課題を把握できておらず**、学習意欲をもつことや維持することが難しい

### 活用による効果

- 朝ごはんの摂取状況や睡眠時間が見える化されることで、**生活習慣を整えることへの意識が高まる**
- 通知表や定期テスト・単元テスト結果だけでなく、日々の学習成果の推移や学習時間も見える化されることで、**毎日の学習の積み重ね状況**が目に見て分かり、日々の学習へのモチベーションが維持される

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

学習データ

- 単元・定期テスト
- デジタル教材上の正答率や取組状況
- 学力・学習状況調査
- 学習計画
- 授業中の発話・アウトプット
- 授業の振り返り
- 授業満足度アンケート
- 学習指導要領コード等

生活データ

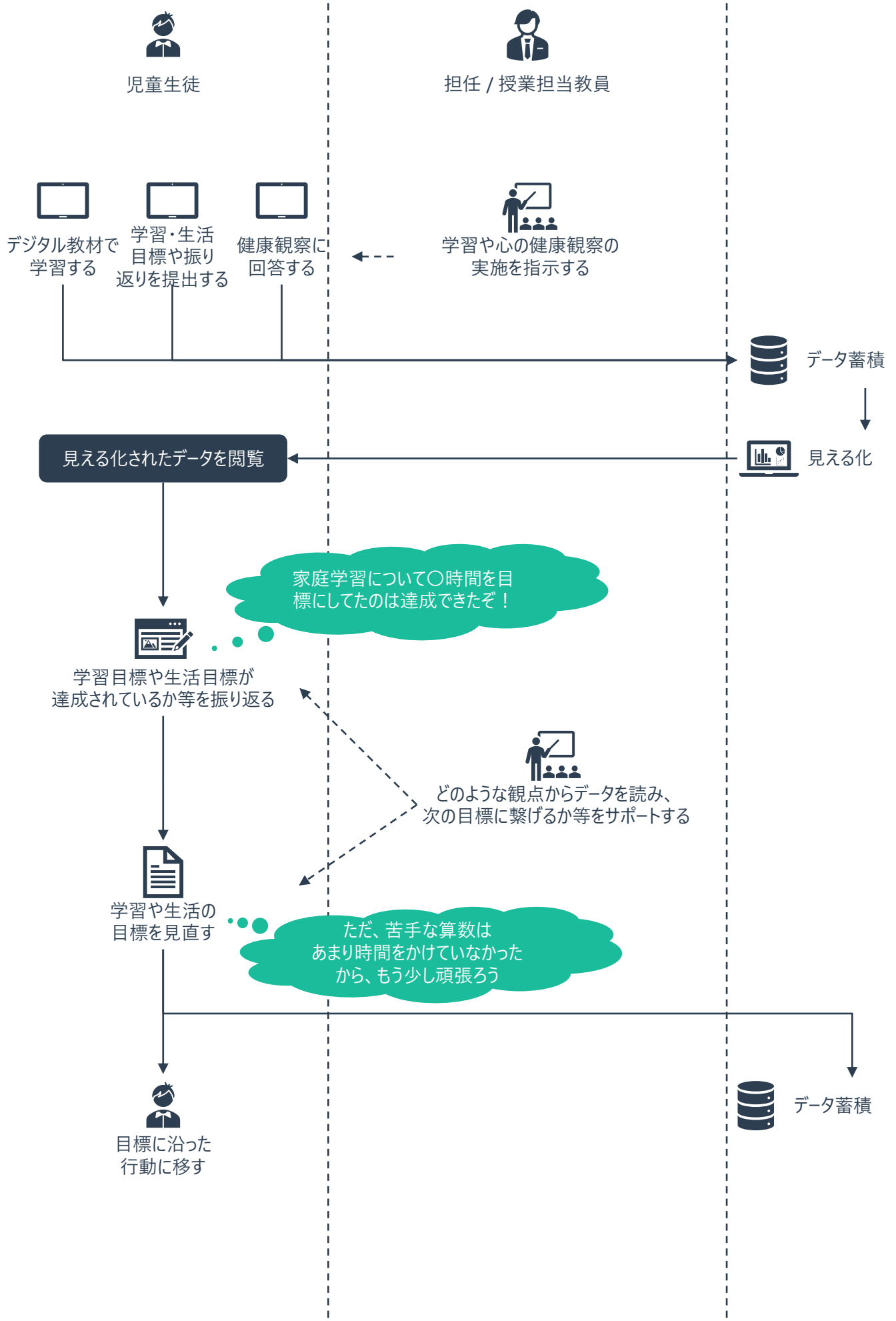
- 出欠
- 健康観察結果
- 生活習慣の記録等

### 実践事例

- 鹿児島県長島町「単元の見通し・振り返りによる授業改善・自律的な学びの実現」・・・P.22
- 香川県「『主体性の向上』に向けた児童生徒自身の振り返り」・・・P.23

# 利活用フロー（例）

- 2-1. 授業改善
- 2-2. 個別支援
- 2-3. 組織的な対応
- 2-4. 学校運営・学級経営
- 2-5. 施策立案



## 事例

# 鹿児島県長島町 単元の見直し・振り返りによる授業改善・自律的な学びの実現

長島町では、町内研究校を中心に、単元の目標を踏まえた振り返りを毎時間行い、単元を通して、児童生徒がどのように変容したかを見て分かるようにしています。教員の授業改善と共に、児童生徒の自律的な学びに繋がっています。

### 背景課題

- 単元目標はあるものの、意識されず、**授業ごとの繋がりが**ない構成となっていた

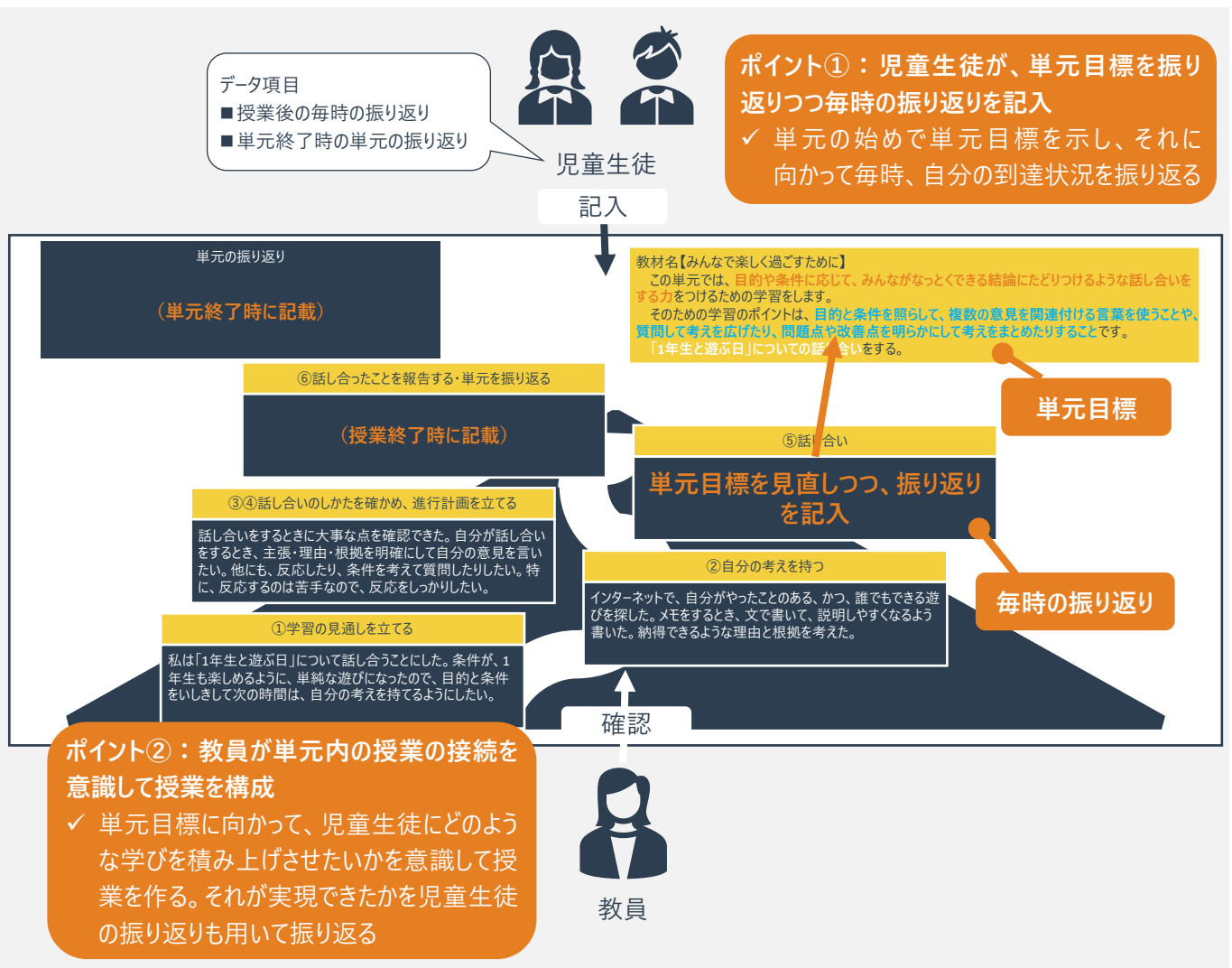
### 取組内容

- 単元目標に向けて、各授業でどのように学びを積み上げていくかを一枚のワークシートに表現する
- 児童生徒が授業ごとに振り返りを記入する

### 取組による効果

- 教員が、単元全体の見直しを持ち、**授業の繋がりを意識**して進められるようになった
- 児童生徒が、単元の最初と最後を比べて自分の考え等がどう変化したか振り返ることで、**自律的な学び**に繋がる

### 取組イメージ



単元の最初に自分が考えていたことと、終わりに考えていることを比べることで、**児童生徒が自分自身の変容に気づける**ようにしています。単元目標はもちろんもともとありましたが、1時間ごとに途切れてしまっているという課題がありました。このような取組を進めることで、**単元を通して繋がりを**持った授業をできるようになりました。(長島町教育委員会 担当者)

## 事例

### 香川県

## 「主体性の向上」に向けた児童生徒自身の振り返り

香川県では、県域共通アカウントを基盤として、全県的に教育データ利活用を推進しています。特に、児童生徒の「主体性の向上」に向けて、学習や生活の目標・日々の振り返りをダッシュボード化し、児童生徒自身が閲覧できるようにすることで、自己の学習・生活習慣等の改善に繋げています。

### 背景課題

- 学習や生活の目標設定・日々の振り返りは、紙を中心に行われてきたが、フィードバックの即時性や、取組の継続性に課題がある
- テストの評点等定量的なデータの活用が多い中、定性的な内容に対しても検討を深めたい

### 取組内容

- 学習や生活目標をフォームで提出の上、日々の振り返りもフォームで提出し、ダッシュボード上に蓄積する
- 児童生徒用の個人ダッシュボードと、教職員用のダッシュボードがある

### 取組による効果

- 自分の学習・生活の課題を振り返り、目標を立て、それに向けて行動するという、自分の学習や生活を主体的に改善していく力に繋がる
- 教職員による目標や振り返りの総覧や、コメントの送付により、児童生徒の励みとなる日々の見取りや声かけ等の充実に繋がる

### 取組イメージ

マイログ（児童生徒用ダッシュボード）				
学習	部活動	学校生活	家庭生活	将来の夢
期末試験で全教科80点以上取	夏季大会で優勝し、全国大会に出場	委員会活動を頑張る	犬の散歩を毎日する	海外で仕事するために、今年英検2級に合格する
先生からのコメント				
2025/6/25 (水)	将来の夢	オンライン英会話初日。全然聞き取れなかった	先生は楽しかった	
2025/6/23 (月)	家庭生活	部活動終わりのボチの散歩。筋肉痛でしんどい	部活で疲れているのに偉いね！	
2025/6/22 (日)	部活動	今日の練習試合はチームの連携がうまくとれずにミスが多かった。正直腹が立った時もあるが、もっと自分から声をかけたい。	先生には非公開のため、コメントはありません	
2025/6/21 (土)	部活動	今日はスタミナ強化週間1日目。10km走めっちゃくちゃしんどかった	明日は15km走です！ファイト！	
2025/6/16 (月)	学習	試験1週間前。前回成績が悪かった数学にかなりの時間を費やした。明日は英語をメインに学習する。	その調子で頑張ってください！期待していますよ	
生成AIからのコメント	7月は、部活動で素晴らしい活躍でしたね！2回戦突破、ベスト16進出は、日々の努力の成果です。スタミナ切れを起こさなかったことは、体力強化の成果だけでなく、練習での計画性と、試合への戦略的な取り組みが実を結んだ証でしょう。この調子で、更なる高みを目指して、8月も頑張ってください！応援しています！			

**ポイント：子どもが「共有の権利」を持つという原則**

- ✓ 振り返りフォームを提出する際に、教職員に非公開にするという選択も設け、子ども自身が自分のデータをどのように扱うかを定める
- ✓ それによって取組の形骸化を防ぐこともねらっている

#### データ項目

- 児童生徒が設定した学習・学校生活等ごとの目標
- 児童生徒による日々の振り返り
- 振り返りに対する教職員からのコメント
- 振り返りに対する生成AIからのコメント

目標・振り返り  
フォームを提出



児童生徒

自分のこれまでの  
学習や生活  
を振り返り

コメントを  
送付



担任

振り返りの状況  
を確認

本県では子どもを主語にした教育データ利活用を進めています。子どもの主体性を上げることが教育の究極の目的だと考えており、ダッシュボードも、子どもの主体性を後押しするようなものになるように設計しています。子ども自身が自分の学習や生活をどのようにしていきたいかを考え、それに基づき目標を立て、目標を達成できたかを振り返るようなプロセスをダッシュボードでも支援していきたいと考えています。（香川県教育委員会 担当者）

## 2-3.

# 要配慮児童生徒への組織的な対応強化に向けた 教育データ利活用

- 2-3-1. 行政データの横断的な活用による児童生徒への支援 P.25
- 2-3-2. 学校内外のデータを活用した不登校児童生徒への支援 P.29

## 2-3-1. 行政データの横断的な活用による児童生徒への支援

### 概要

教育委員会保有データと、福祉部局等子ども支援の部署が保有するデータを組み合わせ、見守り対象とすべき児童生徒を抽出します。就学前の子どもの情報も含め、学校と連携することで、早期対応や継続的支援に繋がります。

### 取組イメージ

#### 学習データ



テスト結果



デジタル教材  
の正答率

#### 生活データ



出欠情報



健康観察の  
結果

#### 福祉データ



乳幼児健診の  
記録



子育て支援  
利用状況

- ✓ **支援の必要性の予測**とは、ここでは、学校や行政として支援が必要である可能性を予測することを指す
- ✓ 教育委員会や学校、子ども支援の部署が持つ過去の知見を生かしていき値を設定する方法や、統計分析により過去、学校不適応等を起こした子どもに共通する要素を分析し、それをもとに予測する方法等がある



- ✓ 支援の必要性が高いとされた児童生徒については、関係者が集まる会議等で支援の要不要や支援策を検討する

### 背景課題

1

- 貧困・虐待等の生活における困難や、学力や生活における困難を抱える児童生徒について、関連部署が個別に支援を行っているが、**状況を共有できていなかったり、必要な支援が行き届かなかったり**することがある

2

- 何らかの困難を抱えているものの、支援の必要性が見落とされている場合がある

### 活用による効果

- 関連部署間で一元的に情報を共有することで、支援が必要な児童生徒について、他部署がどのような関わりをしているのか効率的に把握することができる
- 教育委員会や学校では、就学前からのデータを踏まえて、支援の必要性や内容を検討することができる
- 多角的なデータをもとに支援が必要な児童生徒を抽出し、プッシュ型・アウトリーチ型の支援に繋げることができる

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

#### 学習データ

- 単元・定期テスト
- デジタル教材上の正答率や取組状況
- 学力・学習状況調査
- 授業満足度アンケート
- 授業中の発話・アウトプット等

#### 福祉データ

- 乳幼児健診・予防接種の記録
- ひとり親世帯 / 生活保護世帯 / 児童扶養手当受給世帯 / 就学援助受給世帯かどうか
- 子育て支援利用状況等

#### 生活データ

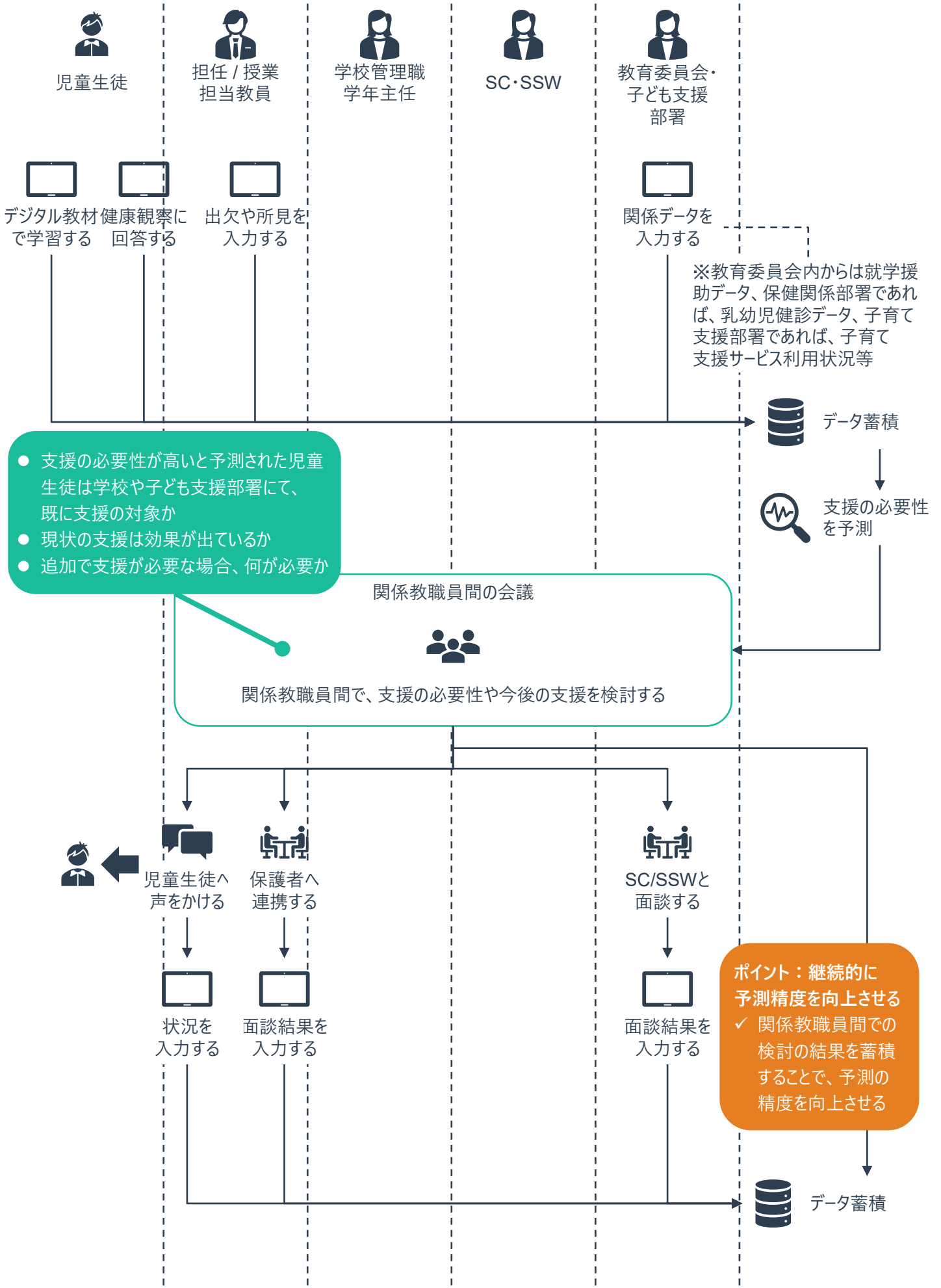
- 出欠、健康観察結果、生活習慣の記録
- 保健室来室の記録
- 教職員の所見・対応の記録
- 学校・学級満足度等

### 実践事例

- 岐阜県山県市「AIによるいじめ等のリスク予測に基づく早期支援」・・・P.27

# 利活用フロー（例）

2-1. 授業改善  
2-2. 個別支援  
2-3. 組織的な対応  
2-4. 学校運営・学級経営  
2-5. 施策立案



## 岐阜県山県市 AIによるいじめ等のリスク予測に基づく早期支援

山県市では、12校（小学校：9校、中学校：3校）について、自治体保有の児童生徒に係るデータを一つのデータベースに集め、AIにより、いじめ・不登校・発達障がい・問題行動の支援の必要性が高い児童生徒を抽出し、早期支援に繋げています。

### 背景課題

- **不登校やヤングケアラーの顕在化、特別支援が必要な児童生徒の割合の上昇**等、現状の児童生徒を取り巻く状況に対して、行政で蓄積されているデータをもとに、早期に介入を行い、必要な支援を届けたい

### 取組内容

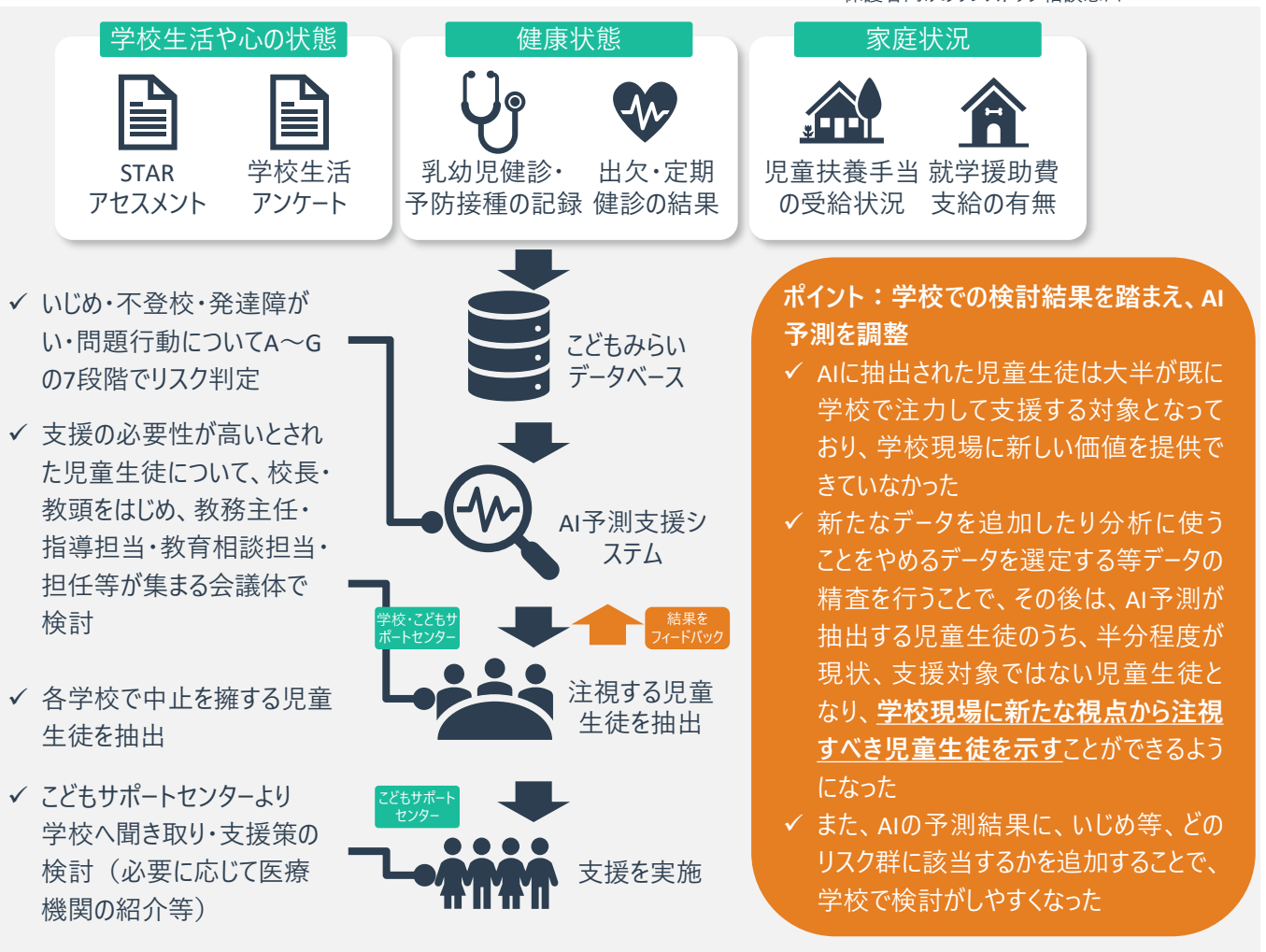
- 就学前の健診や、児童扶養手当等、自治体で取得している児童生徒データをデータベースで一元化し、AIにより、いじめ・不登校・発達障がい・問題行動の支援の必要性が高い児童生徒を抽出する。その上で、学校で注意を要する支援対象者を選定し、こどもサポートセンター※1とともに支援を実施した

### 取組による効果

- AIが抽出した児童生徒と教職員の見取りが異なる場合があり、その理由を検討する中で、**児童生徒理解が深まる**
- こどもサポートセンターが学校と連携することで、学校も**外部機関との連携に積極的に動ける**ようになった

※1こどもサポートセンターとは、教育委員会が中心となって他部局と連携しながら運営する小中学生・その保護者向けのワンストップ相談窓口

### 取組イメージ



学校では、どうしても問題が顕在化してからの対処となりがちですが、顕在化していない中で、子どもたちの困り感にどのように寄り添うべきか、この取組を通して、こどもサポートセンターと学校で、支援の在り方を改めて考えることができます。（山県市教育委員会担当者）

## コラム：教育データの「予測」パターン

P.11の「見える化」に引き続き、当コラムでは「予測」の活用方法をまとめました。

※「検証」の活用方法についてはP.44でまとめます。

※当コラムで扱うデータはイメージであり、実際の事例からの結果を示すものではありません

### 予測

#### 支援の必要性等の可能性を予測し、個別支援を行う

##### 1. 過去の知見等をもとにいき値を設定

欠席日数やいじめ報告件数等、過去の知見から支援の必要性が高いとされる基準値（いき値）を設定し、対象を抽出します。抽出後は、早期に個別支援や介入を行います。



月3日以上欠席が連続している児童生徒はいるか



リストアップし、家庭訪問や面談を実施する



いじめ報告件数がいき値を超えた学校はどこか



専門スタッフを派遣し、学校全体で予防指導を行う

##### 2. 統計分析や機械学習により、支援の必要性を予測するモデルを構築

過去データから統計的なモデルや機械学習を用いて、複数要素によるリスク予測を行います。これにより、単純ないき値では抽出できないリスク層も把握可能となります。リスクスコアの分布をヒストグラムやヒートマップで見える化できます。



不登校のリスクが高い児童生徒はいるか



必要に応じてスクールカウンセラーとの面談等を検討する



バーンアウトのリスクが高い教職員はいるか



学校管理職から状況把握、業務量調整等を行う



#### 情報の取り扱い、バイアス・安易なラベリング、誤判定に十分留意する

どのような教育データ活用を行うにせよ、個人データを用いる際は、利用目的の透明化の上、同意を得る必要があることは言うまでもありません。特に健康状態や家庭環境等、センシティブな情報を扱う場合、慎重な配慮が必要となります。

加えて、上記で示したような機械学習は、「なぜそのような予測結果となったのか」の解釈・説明が難しい点にも留意が必要です。そのため、透明性を担保するために、どのようなデータを用いて、どのような前処理を行い、どのようなモデルで予測を実施したのか等を可能な限り明らかにすることが望まれます。データの前処理方法や、使用するモデルによって予測精度も異なるため、大学や研究機関とも連携し、検証を進めていくべきでしょう。

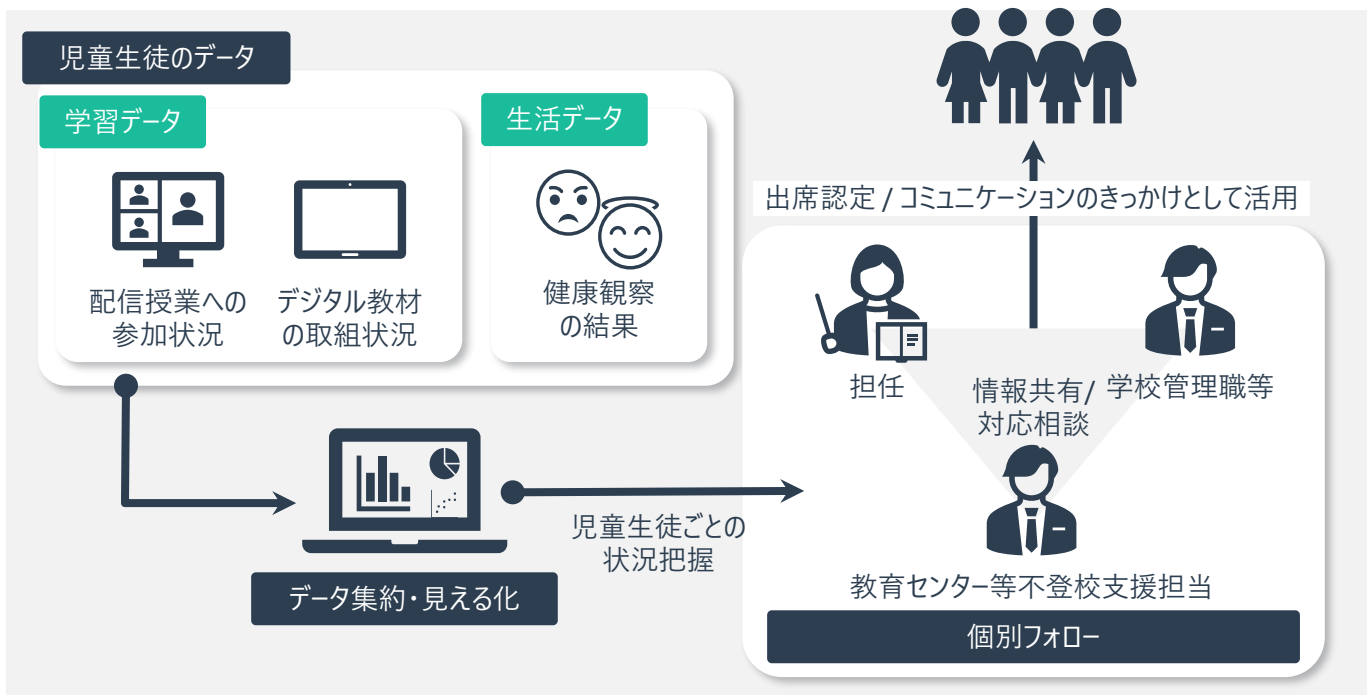
また、機械学習モデルの精度については、予測結果と実際の状況を比較し、予測結果を適用できる限界を考慮する必要があります。機械学習を用いた予測はあくまで意思決定を支援するための一材料であり、最終的な解釈と判断は人が行うことを関係者間で確認することが重要です。

## 2-3-2. 学校内外のデータを活用した不登校児童生徒への支援

### 概要

不登校児童生徒へ配信する授業の参加状況やデジタル教材の取組状況等について、学校及び教育センター等不登校支援担当部署で共有し、出席認定や児童生徒・保護者とのコミュニケーションのきっかけとして活用します。

### 取組イメージ



### 背景課題

1

- 不登校児童生徒に対して、組織的に対応するための連絡/相談/情報交換の時間確保が難しい

2

- 相談先が複数あるため、時間がかかるうえに正確な情報共有が難しい

### 活用による効果

- データを見える化することで、担任以外の教職員にも児童生徒の状態をタイムリーに伝えることができる
- 複数の視点から、児童生徒を多面的に捉え、根拠を持った支援の検討ができる

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

学習データ

- 配信授業への参加状況
- デジタル教材の取組状況 等

生活データ

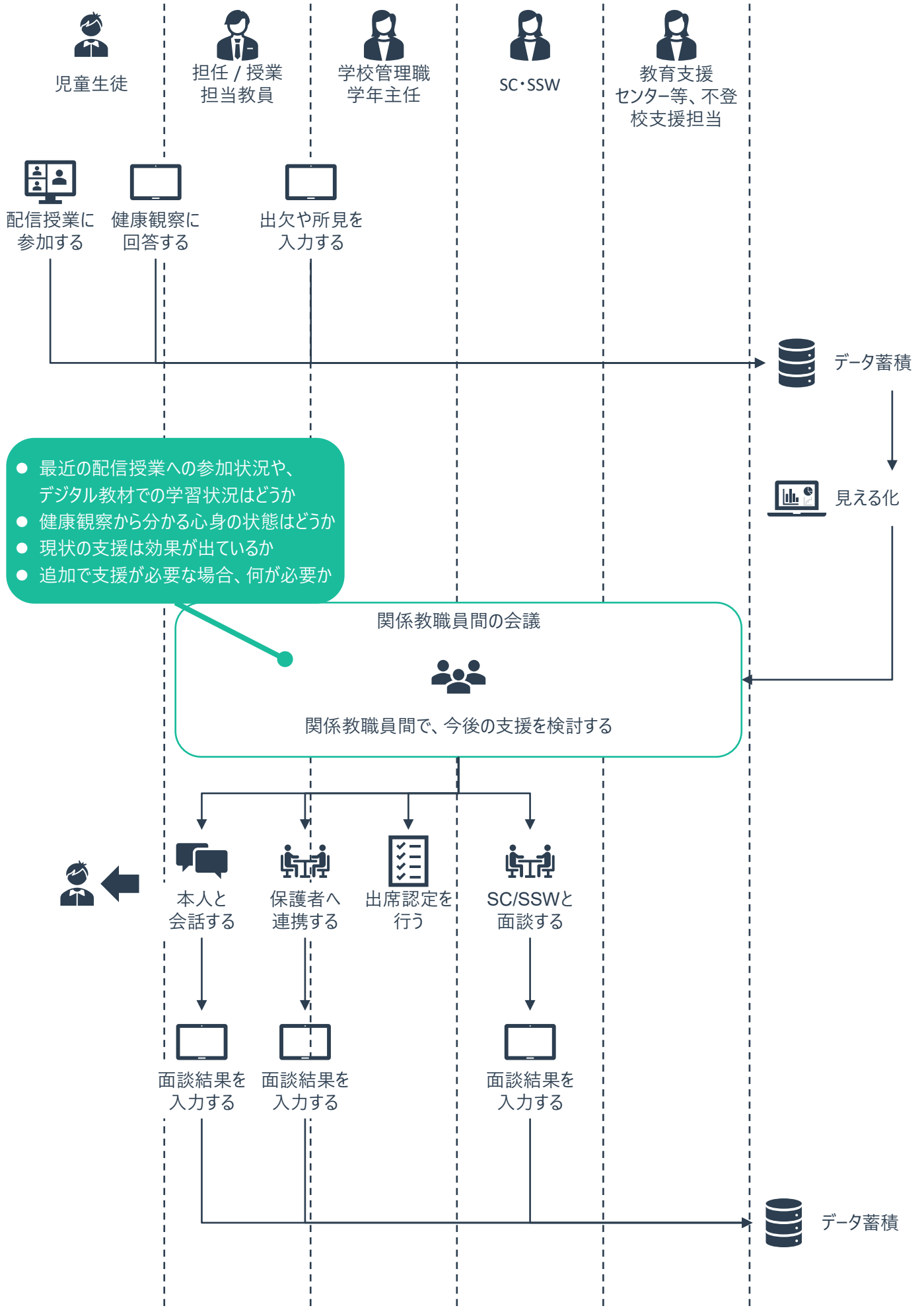
- 出欠、健康観察結果、生活習慣の記録
- 保健室来室の記録
- 教職員の所見・対応の記録
- 学校・学級満足度 等

### 実践事例

- 熊本県熊本市「不登校児童生徒の学習状況の見える化・共有による支援の充実」・・・P.31

# 利活用フロー（例）

2-1. 授業改善  
2-2. 個別支援  
2-3. 組織的な対応  
2-4. 学校運営・学級経営  
2-5. 施策立案



## 事例

# 熊本県熊本市 不登校児童生徒の学習状況の見える化・共有による支援の充実

熊本市では市内全域で不登校児童生徒向けの配信授業やドリル教材の提供を行っています。参加状況は見える化され、在籍校に共有され、出席認定の根拠や、児童生徒や保護者とのコミュニケーションのきっかけとして使われています。

### 背景課題

- 不登校児童生徒向けの配信授業やドリル教材の提供を始めにあたり、**参加・取組状況を学校に共有する必要がある**

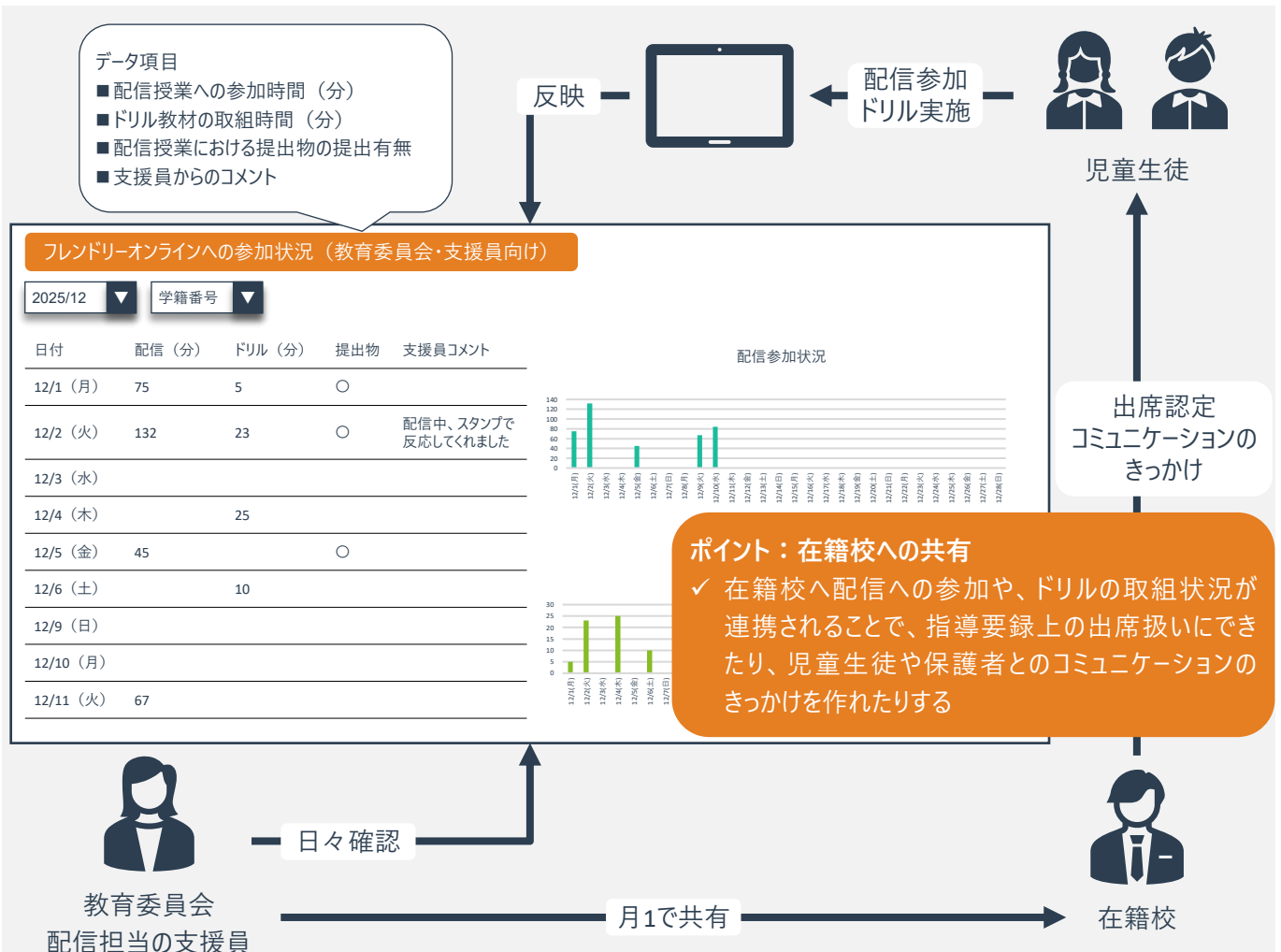
### 取組内容

- 不登校児童生徒の「フレンドリーオンライン」（配信授業・ドリル教材の提供）への参加状況をダッシュボードで見える化する
- 月1で学校に各児童生徒の参加状況を共有する

### 取組による効果

- 学校側が「フレンドリーオンライン」への参加状況が分かることで、**指導要録上の出席扱い**※にできたり、**児童生徒や保護者とのコミュニケーションのきっかけ**を作れたりする
- ※指導要録上の出席扱いにするかは学校の判断による

### 取組イメージ



参加状況は、出席認定のために活用くださっている学校が多いように思っていましたが、教職員にアンケートをしたところ、**児童生徒や保護者とのコミュニケーションのきっかけにも使っている場合も多くあることが分かりました**。不登校の児童生徒全員がフレンドリーオンラインに参加しているわけではないですし、フレンドリーオンライン上でも児童生徒の様子を見取るには限界がありますが、学校で不登校児童生徒支援を考える上での一つの観点として、活用いただければと思っています。

（熊本市教育委員会 担当者）

## 2-4. 学校運営・学級経営に向けた教育データ利活用

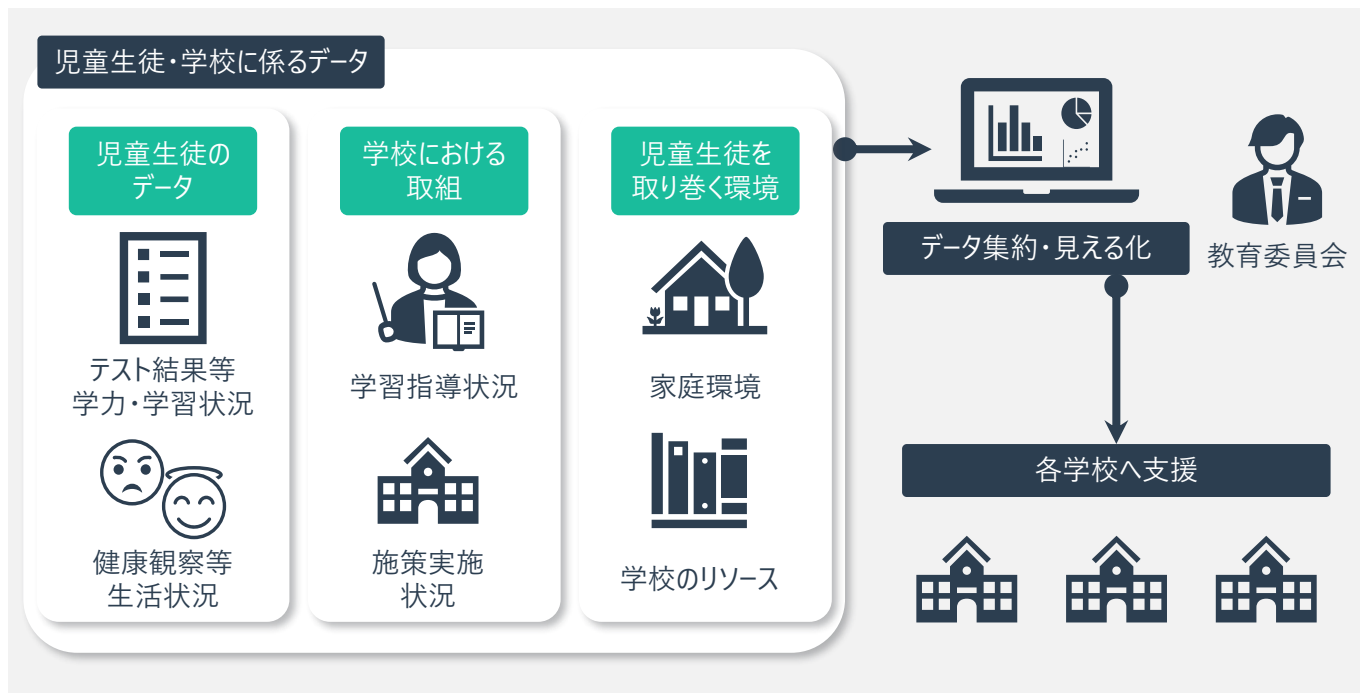
- 2-4-1. 教育委員会から学校への支援 P.33
- 2-4-2. 学校の働き方改革の推進 P.36

## 2-4-1. 教育委員会から学校への支援

### 概要

児童生徒の学力・学習状況や生活状況、学校の課題や、教育委員会が進める施策の推進状況等を見える化し、課題がどこにあるかを検証します。特に支援が必要な学校を特定し、支援を実施します。

### 取組イメージ



### 背景課題

1

- (特に管轄する学校の数が多い場合) 各学校の**最新状況を常に把握することが難しい**
- **学校からの報告を待つとタイムラグが生じ、必要な時に必要な支援を行うことができない**

2

- 教育委員会で、それぞれの部署が担当する分野・施策については、各学校の状況を把握しているものの、**部署を越えて包括的に各学校の状況を把握できていない**

### 活用による効果

- 各施策の実施において、特に課題を抱える学校に**重点的にその時に必要な支援**を行うことができる
- 各学校の状況に応じて、**適切な人員・リソース**により、支援を行うことができる
- 各部署が把握しているデータだけでなく、**部署横断でデータを分析**し、多面的に学校の情報を把握し、指導・助言を行うことができる

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

学習データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単元・定期テスト、学力・学習状況調査</li> <li>● デジタル教材上の正答率や取組状況</li> <li>● 授業満足度アンケート</li> <li>● 授業中の発話・アウトプット等</li> </ul>	学校状況データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校評価の結果</li> <li>● 学校リソース配置状況 (支援員の配置人数、ICT整備状況等)</li> <li>● 学校の施策実施状況 (教育委員会が推進する取組の実施状況等)</li> </ul>
生活データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出欠、健康観察結果、生活習慣の記録</li> <li>● 保健室来室の記録</li> <li>● 教職員の所見・対応の記録</li> <li>● 学校・学級満足度等</li> </ul>		
福祉データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 乳幼児健診・予防接種の記録</li> <li>● ひとり親世帯 / 生活保護世帯 / 児童扶養手当受給世帯 / 就学援助受給世帯かどうか</li> <li>● 子育て支援利用状況等</li> </ul>		

### 実践事例

- 長野県塩尻市「教育委員会からの能動的アプローチにより、複数人の支援体制を構築」…P.35

# 利活用フロー（例）

2-1. 授業改善

2-2. 個別支援

2-3. 組織的な対応

2-4. 学校運営・学級経営

2-5. 施策立案

児童生徒

担任 / 授業  
担当教員

学校管理職

教育委員会

デジタル教材で学習する  
健康観察に回答する

出欠や所見を入力する

施策実施状況を提出する

データ蓄積  
見える化・検証

● 自治体内全体として、目標値・基準値に届いているか

データを閲覧する

全体の状況を  
確認する

各校の状況を  
確認する

学校間共通  
課題に取り組む

学校へヒアリングを行う

- 特に状況が良い「好事例」、状況が悪い「支援対象」となる学校はどこか
- 現時点の『良い・悪い』のみでなく、時系列データを見て「改善している・悪化している」学校はどこか
- 1つのデータのみでなく、複数のデータを組み合わせるときに、多層的に課題がある学校はどこか
- 単純な『良い・悪い』だけでなく、「環境要因から予測される状態よりも『良い・悪い』」学校はどこか  
※例えば、地域の状況を考慮して予測される児童生徒の学力と、実際の学力の差分を見ることで、困難な状況でもうまく取り組んでいる学校を見つけられる可能性がある

※見える化・検証観点については、P.11「コラム：教育データの見える化パターン」及びP.44「コラム：教育データの検証パターン」も参照

他校に共有したい「好事例」について  
好事例を発信する

課題がある学校について  
支援員を派遣する  
研修を実施する  
改善計画・実施を支援する

# 長野県塩尻市 教育委員会からの能動的アプローチで、不登校への支援体制を構築

塩尻市では、教育センターにて毎月、市内全小中学校の児童生徒の出欠席状況を確認し、学校への不適応の予兆が見られる児童生徒を抽出することで、「子と親の支援員※」による早期支援に繋がっています。

## 背景課題

- もともと、30日以上欠席や教室に入れない等、不登校傾向にある児童生徒について各学校からExcelであげてもらい、「子と親の支援員」との支援に繋がっていた
- しかし、Excelで学校から報告された時点では不登校が顕在化している状態であるため、**より早く支援に繋げ、支援を始めることが有用ではないか**と思われた

## 取組内容

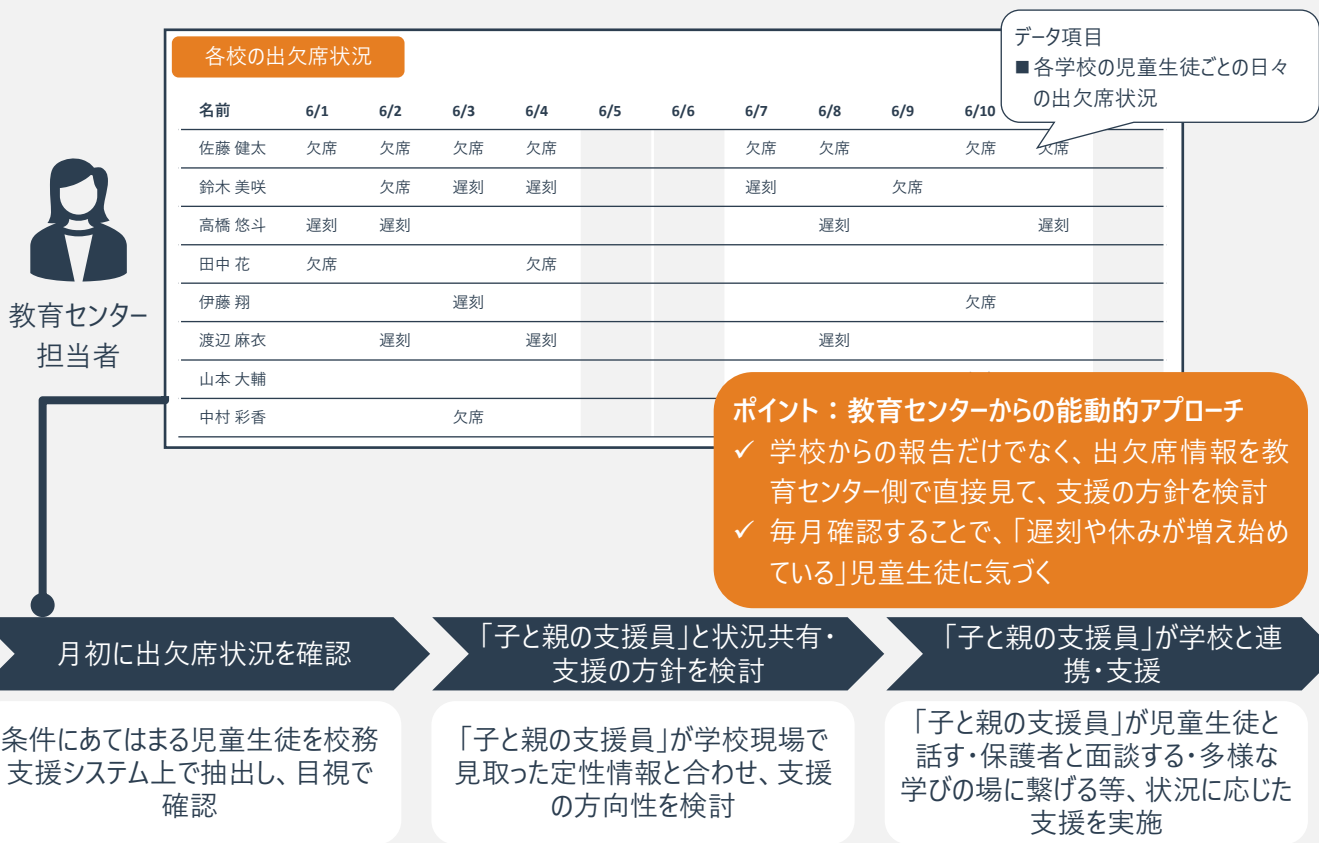
- 教育センターにて毎月、校務支援システムに登録された各学校の児童生徒の出欠席状況を確認し、学校への不適応の予兆が見られる児童生徒を抽出する
- 抽出された児童生徒については「子と親の支援員」が各学校と連携して支援を行う

## 取組による効果

- これまでは、学校から報告があった際の支援が中心だったが、教育センター側で出欠席を確認することで、**より能動的に学校へ支援**を行うことができる
- **担任任せでなく、複数人での支援体制**に繋げることができる
- 早めに介入し、**不登校の長期化を防ぐ**ことができている

## 取組イメージ

※「子と親の支援員」とは、（説明を追加）。令和7年度現在、1人あたり4-5校程度担当し、児童生徒や保護者から学校生活や家庭での悩みの相談や動き出しの支援を行っている。



特に年度頭は、クラス編成が変わり、不適応を起こしやすい一方で、担任もこれまでの状況を把握できていないことが多いです。子と親の支援員が入ることで、担任にも情報共有を行うことができます。そのためには、子と親の支援員が、早め早めに支援に入り、状況を把握することが必要で、**教育センター側で出欠席情報をもとに能動的に学校へアプローチすることは非常に効果的だ**と感じています。担任だけで支援を行わなければならないケースをできるだけなくし、**複数者で支援を行える体制**を作っていきたいと思っています。（塩尻市教育委員会 担当者）

## 2-4-2. 学校の働き方改革の推進

### 概要

教員の在校等時間やストレスチェック結果等の見える化により働き方の改善方針を検討し、施策を実施の上、効果を検証します。

### 取組イメージ



### 背景課題

1

- 教職員の働き方への課題感や、何が課題なのか、ステークホルダー間で共通認識を持っていない

2

- 様々な施策を行っているものの、どの施策が効果的なのか分からない

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

在校等時間に係るデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 在校等時間</li> <li>● 超過勤務理由 等</li> </ul>
教員の心身の健康に係るデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 抑うつ傾向</li> <li>● 主観的幸福感</li> <li>● 教員の専門性向上に向けた学びの内容・量</li> <li>● 働きがい 等</li> </ul>
学校状況データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校の施策実施状況（教育委員会が推進する取組の実施状況 等）</li> </ul>

### 活用による効果

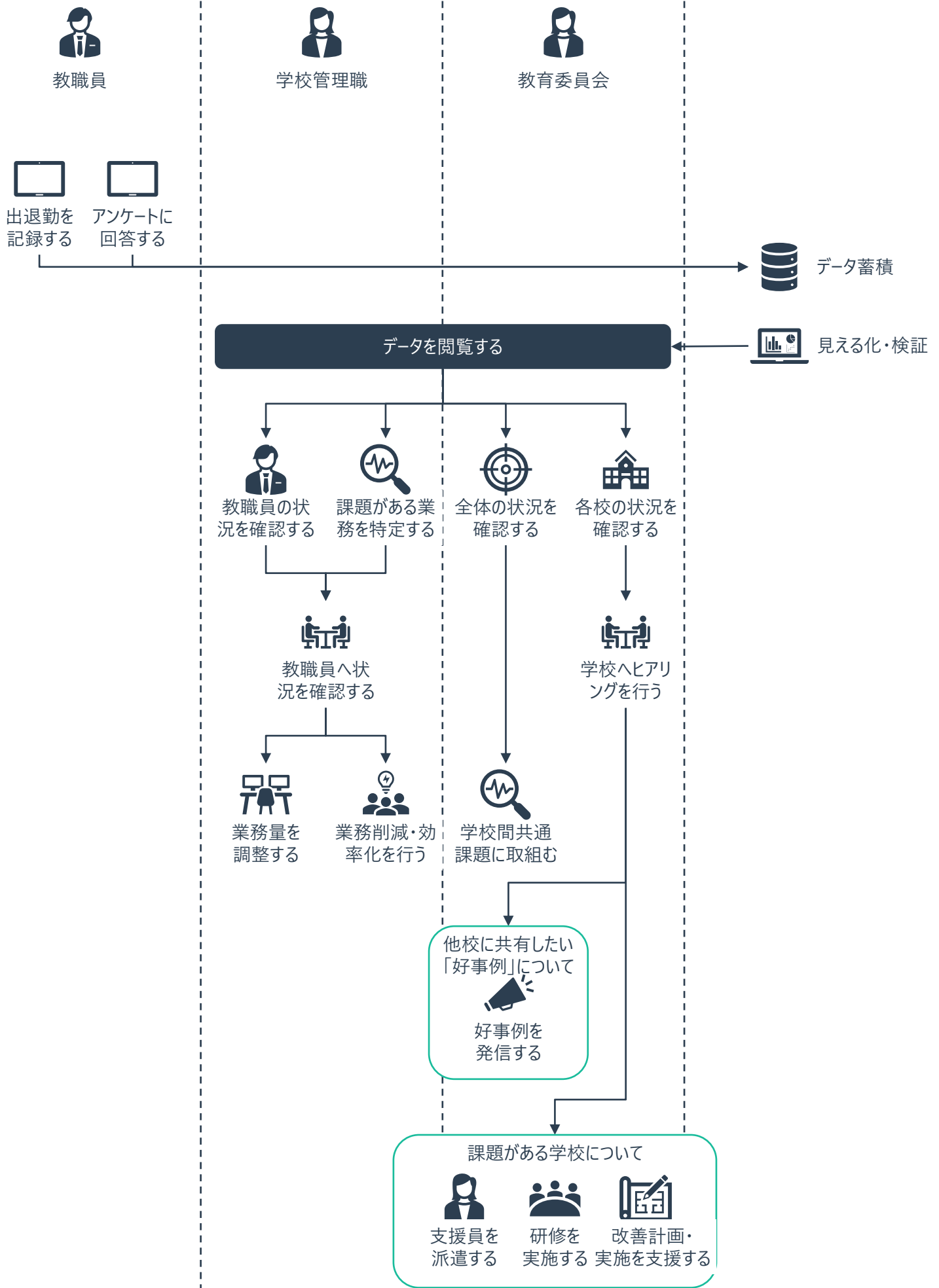
- 学校や教職員別に在校等時間等を見ることで、好事例や課題の特定に繋げることができる
- 時間外在校等時間と関連がある要素を特定することで、どの業務を削減すべきかの意思決定がしやすくなる
- 時間外在校等時間の削減に効果があると見込まれる施策を特定することで、より効果的・効率的な施策を拡大することができる

### 実践事例

- 東京都「在校等時間の見える化による働き方改革の推進」・・・P.38
- 愛媛県「多角的な指標を用いた働き方改革の推進」・・・P.39

# 利活用フロー（例）

- 2-1. 授業改善
- 2-2. 個別支援
- 2-3. 組織的な対応
- 2-4. 学校運営・学級経営
- 2-5. 施策立案



# 東京都 在校等時間の見える化による働き方改革の推進

東京都では、全都立学校向けに、校長が自校の在校等時間を分析するダッシュボードと、保護者や地域に学校の勤務状況を公開するダッシュボードを作成しています。分析の効率化や、対策の立案、保護者や地域からの働き方改革への理解醸成をねらっています。

## 背景課題

- 在校等時間についてどこまで分析し、対策に繋がれているか、**学校の管理職によって差があった**
- その差が働き方改革の取組状況の差にも繋がっているのではないかと懸念があった

## 取組内容

- 各校の在校等時間を教育委員会で一括でまとめ、ダッシュボード上で表・グラフ等で分かりやすく表示する
- 教職員の属性ごとに集計したり、都立全校に対して自校がどのような立ち位置なのかを確認したりできる

## 取組による効果

- 学校管理職が独自に集計作業を行う必要がなくなり、分析を踏まえた**対策の立案に時間を使えるようになる**。また、**分析に慣れていない学校管理職でも一定の分析を行うことができる**
- 同じ形式でのデータを見て**学校管理職同士、情報交換**を行いやすい

## 取組イメージ

**ポイント①：学校管理職向けは、教職員の属性ごとの集計結果を表示**

- ✓ 年齢・勤続年数・職層別で時間外在校等時間の状況を集計
- ✓ 個人データを選択することで、教科や校務分掌ごとに表示させることも可能

**ポイント②：学校管理職向けは、前年度との比較も可能**

- ✓ 前年度との比較を表示することで、改善・悪化している学校が見える化され、学校同士の情報交換等に繋がる

学校名	今年度	前年度	前年度比	今年度の選択月	前年度の選択月	前年度比
A高等学校	50.0	54.2	0.92倍	48	52	0.92倍
B高等学校	60.0	58.3	1.03倍	59	57	1.04倍
C高等学校	48.3	50.0	0.97倍	47	49	0.96倍
D高等学校	67.5	75.0	0.90倍	65	72	0.90倍

**学校管理職**  
※学校管理職は上記のような分析に加えて、個人別データも閲覧可能

**保護者・地域**  
※公開ダッシュボードでは、上記のような各校の詳細データは表示しないが、校種×職層ごとや、各校の全体データを表示

例えば、進路指導部が忙しいということは認知されています。その中でも誰が忙しいのか、気づかれていなかったが実は忙しいのは誰か等、**顕在化していなかった課題への気づき**を得て、各校での対策に繋がっていただければと思っています。また、保護者・地域向けダッシュボードについても、今後周知を図り、学校の状態を分かっていたためのツールとして活用いただきたいです。（東京都教育庁 担当者）

# 愛媛県 多角的な指標を用いた働き方改革の推進

愛媛県では、学校の働き方改革において、心身の健康・学習機会・誇りややりがいといった多角的な成果指標を設け、経年比較を行うことで、働き方改革の先にある「効果的な教育活動」を見据えた取組を行っています。

## 背景課題

- 働き方改革を進める中で、当初は在校等時間のみに着目していたため、一部の学校では**定時退勤日を設けて早い帰宅を促すだけの取組**が中心となる傾向があった

## 取組内容

- 愛媛大学教職大学院と連携し、教職員の働きがい（ワーク・エンゲイジメント）等も含めて働き方改革の成果指標を設定し、毎年調査を行い、経年変化を分析している

## 取組による効果

- 市町教育委員会や県立学校で、他市町・学校と比較した際の課題や、現状の取組の効果等の分析を行い、**施策改善**に繋げている
- 当取組のみの効果ではないが、**在校等時間は短くなっており、同時に、時短のみを目指す取組は減っている**

## 取組イメージ

### 教職員の働き方を良くしていくために目指すところ・指標



#### 心身の健康の確保

- 時間外勤務80時間超及び45時間以内の割合
- 抑うつ傾向
- 主観的幸福感



#### 充実した教育活動のための学習機会の創出

- 教員自身の学びの実践（専門書を読む、他校の見学、講座等への参加等）



#### プロフェッショナルとしての誇りややりがいの創出

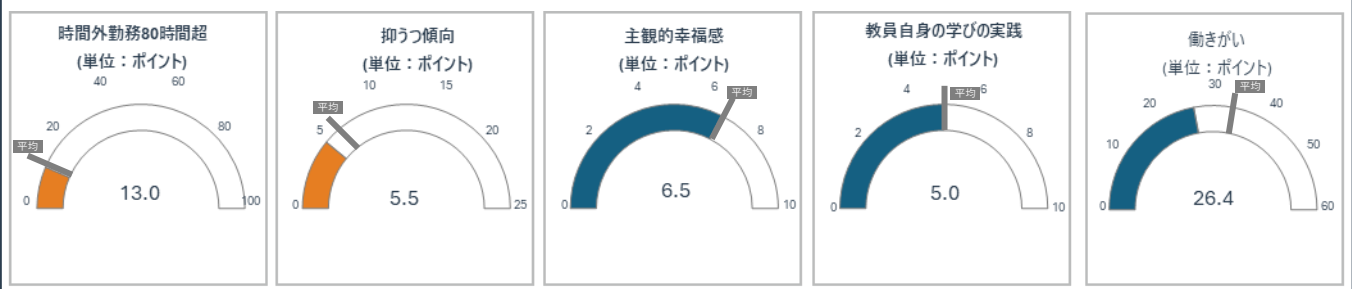
- 働きがい（ワーク・エンゲイジメント）

#### データ項目

- 在校等時間
- 教職員アンケート結果（抑うつ傾向、主観的幸福感等）

### 市町教育委員会・県立学校へフィードバック（イメージ）

【県教育委員会より各市町教育委員会に配布している結果イメージ】



市町教育委員会との担当者会議や、県立学校の管理職が集まる場で確認・検討  
※県立学校の場合、必要に応じて各校へ個別のフォローアップを行い、勤務状況を確認等

多角的な指標を設けることで、単に時短ではなく、その先の教育活動をより良くしていくということを見据えた取組に繋がっています。また、「時間外勤務80時間超の教員の割合」をはじめとする成果指標※に加え、ICT活用状況等も調査を行っているため、ICT活用状況と働き方がどのような関係性があるのか等の分析も行うことができ、市町教育委員会や県立学校で、働き方改革の具体的な取組を検討する際の参考にしていただけるのではないかと考えています。（愛媛県教育委員会 担当者）

※上記「取組イメージ」内の「時間外勤務80時間超及び45時間以内の割合」「抑うつ傾向」「主観的幸福感」「教員自身の学びの実践」「働きがい」を指す

## 2-5. 教育委員会による施策立案に向けた 教育データ利活用

- 2-5-1. エビデンスを踏まえた教育施策の立案・実行・改善

P.41

## 2-5-1. エビデンスを踏まえた教育施策の立案・実行・改善

### 概要

児童生徒の学力・学習状況や生活状況、教職員による学習指導や生活指導、教育委員会・学校が推進する施策の状況等を踏まえ、効果的な教育施策を立案の上、効果検証を行い、効果検証に基づき改善します。

### 取組イメージ

#### 児童生徒・学校に係るデータ

#### 児童生徒のデータ



テスト結果等  
学力・学習状況



健康観察等  
生活状況

#### 学校における取組



学習指導状況



施策実施  
状況

#### 児童生徒を取り巻く環境



家庭環境



学校のリソース



児童生徒や学校の状況を把握



改善したい指標に相関がある要素を特定



施策に効果があったのかを検証

### 背景課題

1

- 様々な取組は行われているものの、教育振興基本計画等、自治体の方針を踏まえ、何が本当に効果的で、今後特に拡大していくべきなのかわからない

2

- 各部署が関連するデータをバラバラに見ていることで、部署を横断した分析をできていない

### 活用による効果

- 担当者の感覚だけでなく、データをもとに教育効果に影響を与える要素・施策を特定することで、**より効果的な教育施策**を推進できる
- **予算獲得等での説得力のある説明**に繋がるとともに、住民への**説明責任**を果たす
- ステークホルダー間で、目線を合わせ、**意思決定をしやすい**くなる
- 部署横断で、様々なデータを用いて分析を行うことで、**より幅広く施策を検討**できる

### 主なデータ

※目的達成に資するデータはこれだけに限らない。詳細は別添データ項目一覧を参照

#### 学習データ

- 単元・定期テスト、学力・学習状況調査
- デジタル教材上の正答率や取組状況
- 授業満足度アンケート
- 授業中の発話・アウトプット等

#### 学校状況データ

- 学校評価の結果
- 学校リソース配置状況（支援員の配置人数、ICT整備状況等）
- 学校の施策実施状況（教育委員会が推進する取組の実施状況等）

#### 生活データ

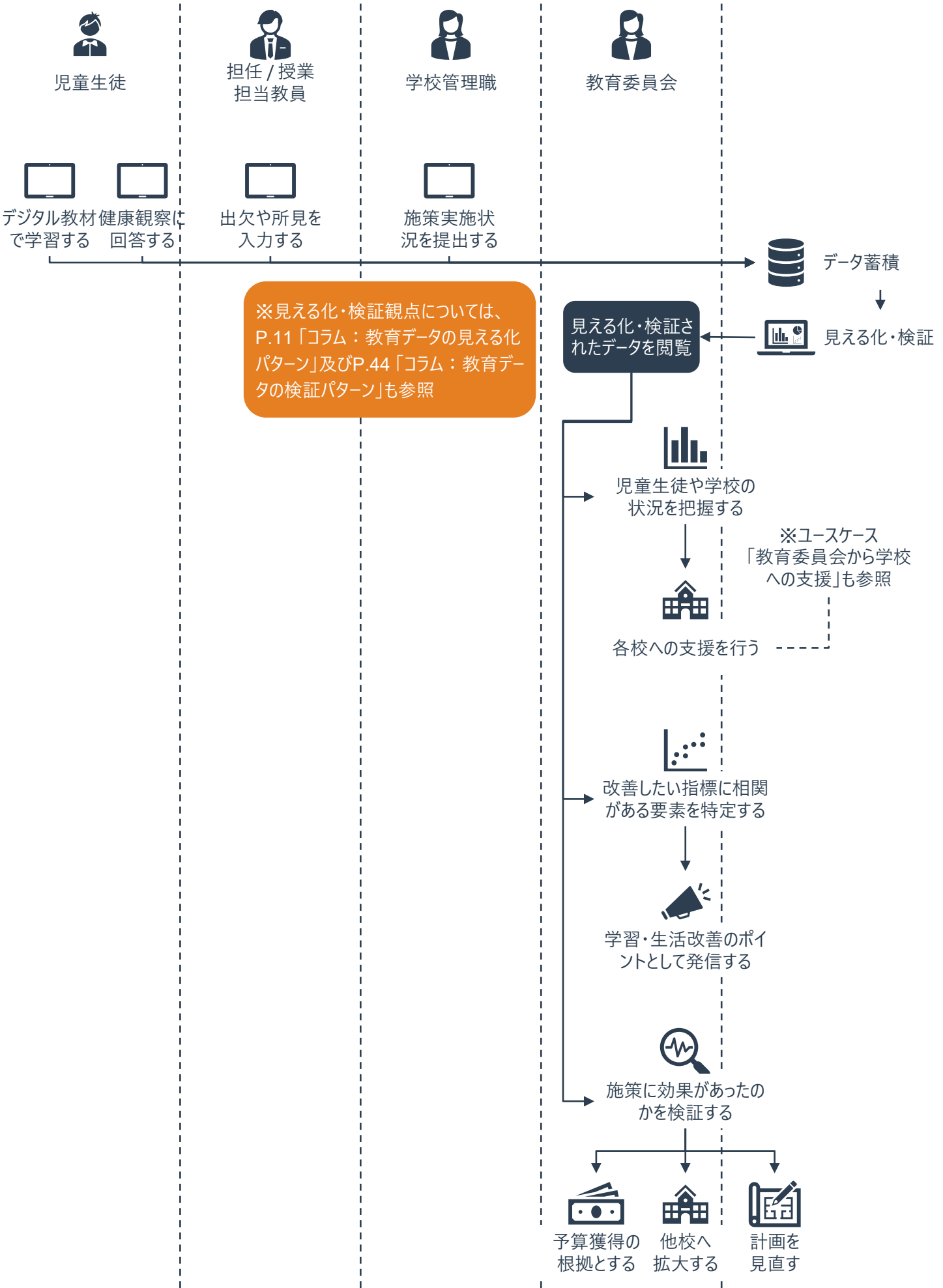
- 出欠、健康観察結果、生活習慣の記録
- 保健室入室の記録
- 教職員の所見・対応の記録
- 学校・学級満足度等

### 実践事例

- 千葉県「施策実施・非実施校や前後比較による教育施策の効果検証」・・・P.43

# 利活用フロー（例）

- 2-1. 授業改善
- 2-2. 個別支援
- 2-3. 組織的な対応
- 2-4. 学校運営・学級経営
- 2-5. 施策立案



# 千葉県 施策実施・非実施校や前後比較による教育施策の効果検証

千葉県では、塾講師を学習支援員として配置する事業の効果検証を丁寧に行うことで、学力や学習意欲向上を明確に示し持続的な予算獲得や、市町村教育委員会に対して学習支援に係る外部人材活用を後押しするための根拠としています。

## 背景課題

- 塾講師を活用した学習支援モデル事業を複数年にわたって継続し、市町村教育委員会における外部人材の活用を後押しするためには、**その効果を明確に示す**必要があった

## 取組内容

- 塾講師配置による効果及びその効果的な配置形態、教員と塾講師との効果的な連携方法等について、事業前後の業者テストや独自アンケート、映像記録や授業観察結果を基に検証した

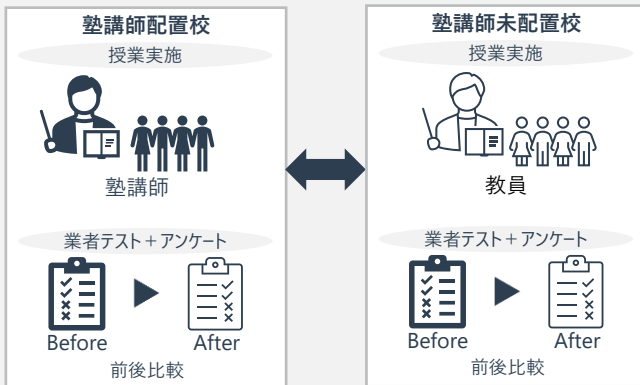
## 取組による効果

- 塾講師の配置が一定の効果をもつことを明確に示すことで、複数年にわたる事業実施や市町村教育委員会における**外部人材の活用事業を後押しする根拠が得られた**

## 取組イメージ

### 塾講師を活用した学習支援モデル事業に係る分析・検証の取組

事業1年目：事業実施校と非実施校を比較  
塾講師と教員の指導の比較により、効果的な指導方法を明らかにし、教員の指導力向上を検証



事業2年目：授業補助+補習を実施（事業前後を比較）  
塾講師の配置による、児童生徒の学力・学習意欲への効果や教員との効果的な連携方法等を検証



※事業3年目には、【塾講師による補習のみ実施校】と【塾講師による授業補助と補習の実施校】を比較し、効果を検証している。

- 塾講師の配置によって児童生徒の学力・学習意欲は向上させられるか
- 教員と塾講師の指導の違いや強みは何か

#### 分析・検証内容

- 塾講師が授業補助に加えて補習を行うことにより、学力・学習意欲はどのように向上するか
- 塾講師をどのように配置するのがより効果的なのか（補習のみ／授業補助+補習）
- 教員と塾講師がどのように連携すればより効果的なのか

- 大学と連携した効果検証
- 事業前後の業者テストや独自アンケートを用いて検証（配置校と非配置校を比較）
- 教員と塾講師による授業の映像記録を基に検証

#### 分析・検証方法

- 県教育委員会による効果検証
- 事業前後の業者テストや独自アンケートを用いて検証（補習のみ／授業補助+補習を比較）
- 教員と塾講師との効果的な連携について授業観察結果を基に検証

- 講師の配置によって、児童生徒の学力・学習意欲の向上が確認できた
- 基礎的な内容を取り扱う単元では、塾講師による反復指導が効果的であること、思考力や表現力の育成を重視する単元では、教員による主体的・対話的で深い学びを踏まえた指導が効果的であることが明らかになった
- 塾講師の配置形態（補習のみ／授業補助+補習）等を検証する2年目以降の事業につなげられた

#### 分析・検証による効果

- 学力や学習意欲の向上を明確に成果としてデータにて示すことで、予算獲得に繋がった
- 県教育委員会として市町村教育委員会における外部人材の活用を後押しする根拠が得られた
- 教員と塾講師（学習支援に係る外部人材等）が効果的に連携するための具体的な方法を示すことができた

効果検証を丁寧に行うことで、**予算獲得での根拠をしっかりと示すことができることは非常に重要だと**感じています。市町村教育委員会に対して、**学習支援に係る外部人材活用を後押しする根拠**となっています。（千葉県教育委員会 担当者）

# コラム：教育データの「検証」パターン

P.11の「見える化」、P.28の「予測」に引き続き、当コラムでは「検証」の活用方法をまとめました。

※当コラムで扱うデータはイメージであり、実際の事例からの結果を示すものではありません

## 検証

### 要素間の関係性を踏まえて、より良い施策に繋げる

#### 2-1. 改善したい指標に相関がある要素を特定

2つ以上のデータの間にはどのような関係性（相関）があるかを分析することで、課題や要因、改善のヒントを得ることができます。例えば、ICT活用状況と学力、出席日数と自己肯定感等の相関を調べることで、指導や支援の優先順位、方策を考える材料にできます。



平日の睡眠時間とテスト得点の相関を調べる



睡眠時間が短い児童ほど得点が低い傾向があれば、生活習慣指導を強化する

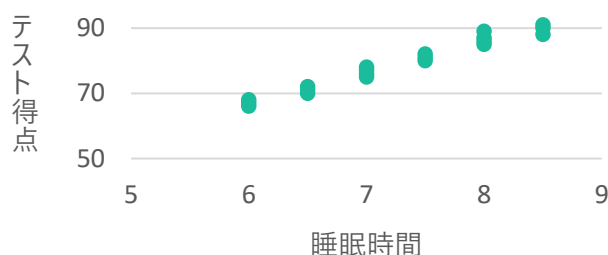


英語における言語活動の時間の割合と、児童生徒の「英語の授業が楽しいか」の相関を調べる

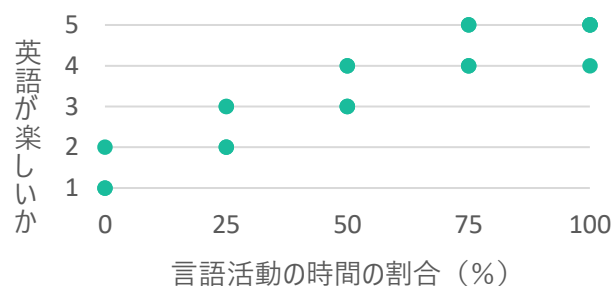


言語活動の時間が長いほど「楽しい」と感じる傾向があれば、授業改善のヒントとして発信する

睡眠時間×テスト得点



言語活動×英語が楽しいか



#### 相関と因果関係の違いに注意する

データ分析を行う際は、「相関があるからといって、必ずしも一方が他方の原因とは限らない」ことに気をつけましょう。例えば、アイスクリームの売上と水難事故の発生件数には相関があることが知られています。しかし、これは「アイスクリームを食べると水難事故が増える」わけではなく、どちらも「暑い夏」に増えるためです。このような誤った関係を「疑似相関」と呼びます。

教育データの分析でいえば、例えば、睡眠時間とテスト得点に相関があっても、睡眠が直接テスト得点に影響しているとは断定できません。他の要因（生活環境や体調等）が関係している可能性もあります。

相関が見られた場合でも、他の要因が影響している可能性があるため、すぐに因果関係があると考えず、慎重に解釈しましょう。

※因果関係を明らかにしたいなら、理想的にはランダム化比較試験をするのが一番です。しかし、この方法はランダムに施策実施対象とするかどうかを決めるため、実施が難しいことが多いです。そのような場合でも、重回帰分析等を使って他の要因をコントロール（交絡因子を調整）することで、因果関係の検証に近づくことができるでしょう。

## コラム：教育データの「検証」パターン

### 2-2. 時系列や対象の違いによって効果が表れているかを確認

教育現場で新しい取組や施策を導入した際、その効果をデータで検証し、結果に基づいて内容や方法を改善していくプロセスが重要となります。**事前・事後や、取組を実施したグループとしていないグループで比較**することで、本当に成果が出ているか、どの部分に課題が残っているかを明らかにします。



朝の読書活動を導入し、導入前後で児童の国語の読解力テスト得点の変化を比較する



得点が向上していれば継続・拡充し、変化がなければ内容や方法を見直す



ICTを活用した授業支援の導入学校・未導入校の取組前後で、学習意欲の違いを調べる



効果が確認できれば他校にも展開する

読解力テストの結果



授業が楽しいか



#### 数字のデータが全て精度の高い「エビデンス」ではない

例えば、上記の例での「朝の読書活動は、読解力向上に繋がるのか」という検証を例にとり、幾つかの検証方法を例示します。検証方法にはそれぞれ得意な点と苦手な点が存在します。その特徴を理解した上で、目的や状況に合った方法を選ぶことが重要です。

- 自治体内で**朝の読書活動を行う学校と行わない学校をランダム**で決める。行う学校・行わない学校間で、朝の読書活動**導入前の読解力は同レベル**であることを確認の上、**導入後の読解力**に**違いがあるか**検証する  
→実施のハードルは高いが、最も信頼性高く、「朝の読書活動によって読解力が向上した（もしくは向上しなかった）」とすることができる
- 自治体内で**朝の読書活動を行う学校と行わない学校を（ランダムでなく）**決める。行う学校・行わない学校それぞれで、朝の読書活動**導入前後の読解力**を測定し、比較する  
→実施のハードルは依然高いが、ある程度、信頼性高く「朝の読書活動によって読解力が向上した（もしくは向上しなかった）」とすることができる。ただし、1に比べると「朝の読書活動以外の要因」によって読解力が向上した（もしくは向上しなかった）可能性が残る
- 自治体内で**朝の読書活動を行っている学校・行っていない学校**を探し、**現状の読解力**を測定し、比較する  
→実施におけるハードルは下がるが、読解力の違いが朝の読書活動によるものなのか、他の要因なのか言い切れない。例えば、朝の読書活動を行っている学校で読解力が高かったとしても、そのような学校では、読解力向上に向けて他の取組を行っており、その取組によって読解力が高くなっている可能性がある
- 自治体内で**朝の読書活動を行う学校**において、**導入前後の読解力**を測定し、比較する  
→実施におけるハードルは下がるが、前後の変化が朝の読書活動によるものなのか、他の要因なのか言い切れない。例えば、単純に国語の学習が進んだために、読解力が向上した可能性がある